

十
三
ん



関西丹波市郷友会会報

第3号 2018.11.1

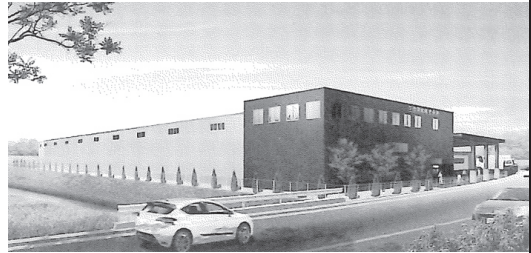
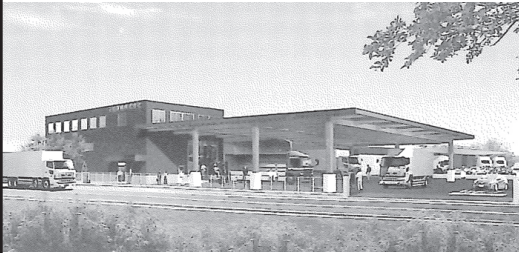
三協運輸 株式会社

本店住所 埼玉県桶川市坂田字向 990-1

創立 30 周年を迎え、お陰様でつつがなく発展しております。

東海道を中心に大型トラック約 200 輛
最新鋭設備を備えた物流センター及び倉庫約 12,000 坪
を軸に毎日フル稼働の体制で活動してまいります。

〔安全・安心・朗らか〕を旗印にご期待に応えて参ります。



本店 社屋（敷地面積 4,000 坪、建物面積 2,000 坪）平成 23 年 10 月 1 日完成



関東発一関西行の風景

出発直前の大型トラック部隊
毎日 200 台の車輛群が東海道を
中心に走っております。

〔主要取引先〕 順不同

ダイキン工業(株) キリンビール(株) 味の素(株) ハウス食品(株)

キューピー(株) アサヒビール(株) 帝人(株) 三菱商事(株) 日立化成(株)

三井化学(株) 横浜ゴム(株) (株)東芝

三協運輸 株式会社

代表取締役会長 岸本勲（氷上町出身）

本店 埼玉県桶川市坂田字向 990-1 TEL.048(728)9380

E-mail:sankyounyu_saitama@h6.dion.ne.jp

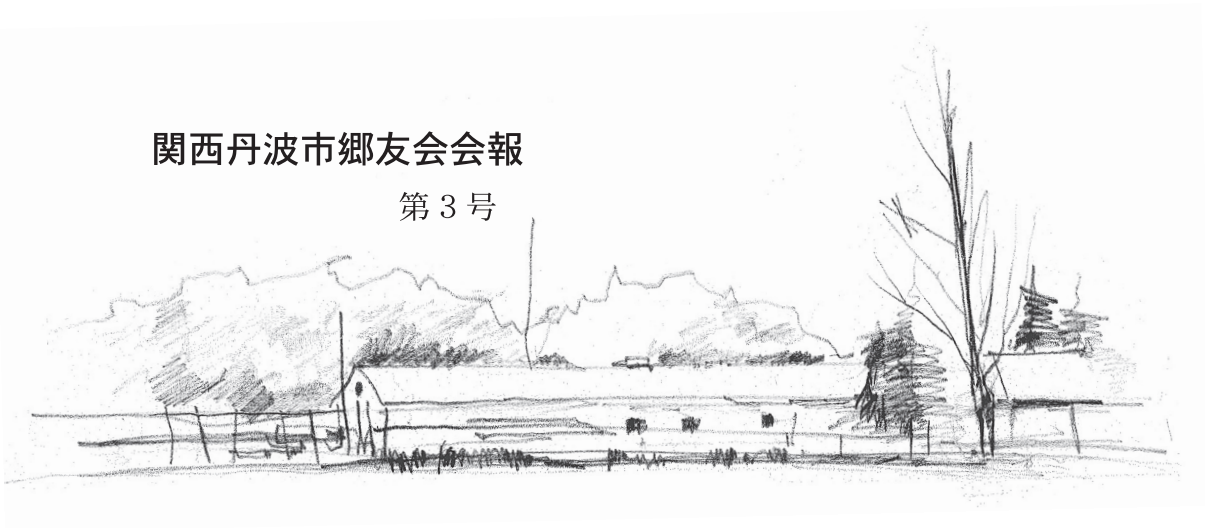
本店配車センター 埼玉県桶川市坂田字向 990-1 TEL.048(729)0466

物流倉庫所在地 東京・埼玉・神奈川・名古屋・大阪

たんば

関西丹波市郷友会会報

第3号



目 次

一歩ずつ力強く前進	有田 秀雄	3
医療講演も合わせて 第107回総会		4
平成29年度支援事業 中学生からのお礼		8
生命輝かそう丹波市民	邊見 公雄	10
手話で始まった講演会	芦田 敬一	12
100周年人づくり大賞の受賞団体その後	小田 晋作	14
F・L・ライト 遠藤新 三崎省三	上田 信也	18
地域医療を考える会10年	里 博 文	22
丹波の記憶を原点に	笹倉 鉄平	25
厄神さんに生まれた『挽歌集』	原谷 洋美	30
片山桃史の生と死(下)	一色 哲八	33
網干の捨女さん	芦田 敬一	37
「関西語と関東語」考	足立 幸信	40
郷土愛、日本の心を子供達に	上田 敦史	43

次代に伝えたい童謡・唱歌	田中なほみ	45
心に残る美術館に	山中直喜	47
生きている時間確かめる	清水雅子	49
小学5年まで住んだ柏原	荻田美代	51
丹波で働けた幸運	ジェシカ・ブラツェック	53
米国との交換留学50年	岸 田 功	55
明るく陽気なイタリア人	中川 真貴	58
丹波にとつての「平成」時代	小橋 昭彦	61
奴々伎神社の三番叟	足立 壽宏	64
編集後記		66
広告目次		67

表紙 奴々伎神社の三番叟 題字(表紙・中扉) 荻野丹雪 写真(表紙ほか) 足立壽宏 カット(中扉ほか) 奥野隆之	
---	--

一歩ずつ力強く前進

関西丹波市郷友会 会長 有田 秀雄

列車の窓から眺める丹波路は、朝霧が晴れたように明るい陽光に輝いていた。今日は、第百七回の総会の日である。まもなくして、JR柏原駅に到着し、すぐにタクシーに乗って会場である柏陵会館くすのきホール前に降りた。すると、日

曜日であるのに「おはようございます。」と生徒たちの元気な凛とした声が十一月の青空に心地よく響いていた。

しばらくして、ホール玄関が開き、場内を独楽鼠のように働く人がいた。後で校長先生と聞き、驚くとともに感心させられた。

第一部、地域医療講演会「生命輝かそう丹波市民!!」へ全員参加で医療を中心とした街づくりへ少子高齢化社会にいか

に医療の充実が大切であるかを知る機会を得ました。非会員の一般の方も出席する初めての試みでした。丹波市をはじめ多くの方々のご協力に感謝です。第二部、丹波市中学校体育連盟に優勝旗贈呈式を行い、その後、男子生徒からの感謝

の言葉の時、言葉がすぐに出て来ません。極度に緊張したのでしょうか。私は心の中で頑張れと何度も祈っていました。

この時なぜか、この会がやっている事は間違いなく丹波市に在住する青少年の健全なる育成に役立っていると確信し嬉しくて胸が一杯になりました。そして、丹波市少年少女合唱団の清らかな歌声に心洗われ、強い絆を感じました。

文明が進歩しAI(人工知能)、ロボットが活躍しても、「人の心」を超える物を作ることは出来ません。これからは、大自然を「守る」から「育てる」農林水産業の時代です。つまり、エコロジーを極めた循環型社会の実現を目指さなければなりません。一人の一步は小さくても、百人千人となれば、大きな力となります。これからも丹波市とともに一歩ずつ力強く前進いたします。



29年度総会で

医療講演も合わせて

第107回 関西丹波市郷友会総会



たんば黎明館前での記念写真（撮影＝監事 足立壽宏）

平成29年11月19日、第107回関西丹波市郷友会総会が昨年に引き続き丹波市柏原町で開かれました。総会に先立って、県立柏原高校内の柏陵会館において、「生命輝かそう丹波市民」という題で講演会が行われました。講師は、赤穂市民病院名誉院長、全国自治体病院協議会会長（当時、現在は名誉会長）の邊見公雄先生です。

この講演会は、平成31年の県立医療センターの開院に合わせたタイムリーな企画です。そのために、初めての試みとして会員以外の方々にも参加を呼びかけることにしました。事前に、ポスター、チラシを丹波市内に配り周知をはかりましたが、どれだけの人にきて頂けるのかはまったくわかりませんでした。ただ、昨年より会員、役員も増えてパワーアップして準備を行いました。

講演会は最初に会長の有田秀雄さんの力強い挨拶より始まりました。

邊見先生の御講演はまず手話による自己紹介より始まり、終始ユーモアを交えたわかりやすいお話でした。これらのお話は、これからの私たちの医療に対する考え方や丹波市の医療にとっても示唆に富むお話でした。

講演会の終了後に、同場所で副会長の小田晋作さんの挨拶で総会を開きました。来賓の挨拶は、谷口市長の代理の鬼頭副市長です。そののちに、足立壽宏さんの会計監査報告が行われました。今年度の奉仕活動は、丹波市体育連盟の新人大会の優勝旗と丹波市少年少女合唱団です。

授与式には大会のために2校のみの出席でした。丹波市少年少女合唱団のコーラスは軽快なサンバや出席者とともに紅葉の合唱でした。

午後からは、前年度と同じたんば黎明館のル・クロでの懇親会です。

県立柏原病院院長の秋田穂束先生の乾

杯で始まりました。

その後、邊見先生への記念品として磯尾隆司さんの得意なだるまの彫刻が贈られました。

次に本年度に初めて総会に参加された9人の紹介がありました。

本年度のスピーチは4人です。最初には、丹波市医療再生ネットワーク代表として、医療人と市民の橋渡しに頑張っておられる里博文先生です。

次には、県立柏原病院の秋田穂束現院長、そして前院長の酒井國安先生です。病院も評価の基準となる研修医に人気のある病院になってきたとのことです。

次には、柏原高校で長年英語を担任され、退職後は中井権次研究で活躍中の岸名経夫先生です。

最後には、丹波市で映画撮影中の「竜の詩」の監督の近兼拓史さんのお話です。阪神淡路大震災の体験を話され、この映画を通して、丹波市の良さを子ども

を通して100年後にも残る記憶にした。いとお話でした。

その後、昨年と同じくくじ引が行われました。会員持参の品物は72品目集まり、92000円の収益は映画「恐竜の詩」の製作に寄付されました。そののちに、田中なほみさんの指揮で「ふるさと」の合唱でした。

最後に副会長の田恭子さんの「丹波市の良さをあらためて思いおこす会でした」との挨拶で終わりました。

(記 芹田敬一)

6、7ページに会場風景

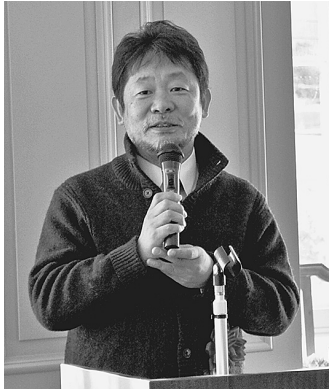


黎明館ホールがいっぱいに（あいさつする田副会長）



邊見氏の講演には会員外の人も多数参加

撮影
常任理事 野村忠利
常任理事 岸田康博



映画「恐竜の詩」の近兼監督



田中なほみ常任理事の指導で「ふるさと」を合唱



中学校新人大会の優勝旗を授与



柏原病院新病棟の抱負を語る秋田院長（右）ら



少年少女合唱団の熱演

平成二十九年度の支援事業

平成二十九年度の支援事業は、丹波市中学校体育連盟に新人戦の優勝旗6旗を贈呈し、また、丹波市少年少女合唱団の定期演奏会に祝儀を贈呈しました。

中学校体育連盟への優勝旗の内訳は、

- ① バスケットボール競技 男子の部
- ② 同 女子の部
- ③ バレーボール競技 男子の部
- ④ 同 女子の部
- ⑤ ソフトテニス競技 男子の部
- ⑥ 同 女子の部

丹波市中学校体育連盟新人大会

新人大会は、3年生の引退後の1、2年が新チーム結成して行う初めての大きな大会です。平成28年度は9月30日～10月2日に市内の中学校、体育施設で熱戦

が繰り広げられました。新人大会の新しい優勝旗は、陸上総合、陸上男子、陸上女子、野球、ソフトボール、サッカーに贈呈されました。従来の氷上郡に入れ替わり丹波市と刺繍された新しい優勝旗です。また、残りの競技は順次贈呈する予定です。総会では、八木則久連盟会長よりそれぞれの代表者6人が紹介され、会長の有田さんより新しい優勝旗が授与されました。

丹波市少年少女合唱団

丹波市少年少女合唱団は昭和50年に結

成され、多くの音楽祭や地域行事の出演や、福祉施設の慰問などで親しまれています。定期公演会を毎年8月に開催しています。記念となる40回の定期公演会は平成28年8月20日に丹波の森公苑で開催されました。今回は愛唱歌や合唱ミュージカル「ブレイメンの音楽隊」が歌われました。

合唱団では小学生15名が中心に毎週土曜日の午前中に主に柏原住民センターで練習に励んでいます。郷友会の総会には毎年、元気でさわやかな歌声をきかせてもらっています。

中学生からのお礼の言葉

郷友会総会で、氷上中学校サッカー部

た。以下全文を紹介します。

主将より、以下のようなお礼の言葉を読み上げられました。そのあつい言葉は、私たち郷友会会員一同の励みになりました

何も見ずには今回のお礼と私たちの思いを伝えるのが不安でしたので紙に書いて

* * *

てきましたので読み上げさせいただきます。

まず初めに、関西丹波市郷友会の皆様におかれましては、今回この様な立派な優勝旗を6本も私たち丹波市内の中学生のために丹波市中学校体育連盟に寄贈していただきましたこと本当に感謝しております。ありがとうございます。

私たち氷上中学校サッカー部は、今回の丹波市新人大会の前に優勝旗が新しくなった事を知りました。「この新しい優



勝旗を必ず氷上中へ持ち帰る」を合い言葉に大会に挑みました。「新しい優勝旗」を用意していただいた事によって、私たちは一つの目標を持つ事が出来ました

し、私たちサッカー部もチーム一丸となりまとまる事ができました。そして、新人大会の試合中は、苦しく辛い時間帯も数多くありましたがなんとか優勝することができました。表彰式で「優勝旗」を渡された時には、試合中の苦しさや辛さの事は忘れ、心の底から嬉しさがこみ上げてきました。今まで以上にサッカーをもっと頑張って練習しようという意欲が湧いてきました。

10月15日から開かれた丹有地区新人大会では、丹波市の優勝チームとして挑んだのですが、悔しくも1回戦で敗退してしまいました。しかし、半年後に行われる中学生生活最後の総合体育大会では、今回の丹有大会での悔しさを胸に今以上にチームをまとめあげ、そしてもう一度、

この新しい優勝旗を手にして丹波市代表チームとして丹有大会や県大会に挑めるよう頑張っていきたいと思えます。

この優勝旗のおかげで、私たちが頑張って試合に挑んだ結果が10年先・20年先・いやこれからずっと先まで記録として残せますし、中学生の時に部活動で掴み取ったこの優勝旗の感触と感動は、私たちの嬉しかった記憶の一つとして心の中にも残せます。郷友会の皆様様本当にありがとうございます。最後になりましたが、いつも私たちの活動を支援していただいています先生方や関係者の皆さま本当にありがとうございます。私たち丹波市のサッカー部は、常に「リスベクト」を胸にこれからも大好きなサッカーを続けていきたいと思えます。

氷上中学校サッカー部主将

安田 壮吾

生命輝かそう丹波市民

病院中心に全員参加で

〈をてを演講を講終〉

赤穂市民名誉病院長 邊 見 公 雄

昨年11月19日、柏陵会館くすのきホールにて「生命輝かそう丹波市民」病院中心に全員参加の街づくり」と題して話させていただいた。三段構えのタイトル

の三段目は「一地方病院のささやかな試み」ということで、赤穂市民病院長22年間の経験なども参考になればと追加した。大幅に時間オーバーし、御来賓の方々や御参加の皆様方、特に世話人の皆様方には本当に心労をおかけしたこと、この場でお詫びしたい。



この企画をいただいたのは畏友、池畑廣士郎氏からである。県立柏原病院と柏原赤十字病院との統合の話があり、その懇談会や新病院建設予定地決定委員会、住民の皆様方への理解のた

めのフォーラムなど柏原へお伺いすることが多く、東京でも再生医療のベンチャー企業に携わられていたので急速に親密度が増し、新病院を丹波市の地方創生の起爆剤にとの思いも一致した。病院の食事は地産地消、人間ドックは外国人の医療ツーリズムで、日本の里山を再認識し観光客誘致、丹波竜などの学習ツアー、そして臍帯血バンクを病院関連施設に：夢はどんどん膨らんだ。そしてこれらが今回の講演となって実現したのである。

実は同じような企画を福知山市でも春にやったのだが、その会場に何と今回の担当者である芦田敬一氏が私の品定めに来られていたようで、京都まで同じだった列車の中で色々な御当地の知識をいただき、大変勉強させていただいた。

講演前日には約40年振りに水上カントリーでゴルフ。池畑氏と御一緒の田村有史の亡きご主人が、私がよく知っている

奈良医大附属病院長の古家先生と親友と伺い、世の中、特に医療の世界の狭さを痛感。夜にはこれまた40年振りに大和屋へ泊めていただいた。前回、宿の女将に「主屋の屋根の真ん中で小便すると、こちら側へ流れると加古川から瀬戸内海、太平洋へ。あちら側なら円山川から日本海へ」と教えられ、翌朝に近くの水分れ神社を訪れたのを覚えていた。

丹波市郷友会理事の皆様方との楽しい夕食会。途中で山名氏より「奥丹波」の差し入れあり。格別の美酒であった。まづ郷友会の会長始め歴代の先輩会長などの御紹介。統合病院長予定者の秋田穂東県立柏原病院長からは、新病院のコンセプトや抱負、住民がサポーターになってほしいとのことなど熱のこもったスピーチがあった。今後は竣工式や病院祭など出来る限り訪問し、その実現度を見せていただくのと秘かに念じている。

丹波の医療を考える会代表の里先生か

ら、一週間前に私の大学ボート部の先輩である田中紘一先生が来られていたとお聞きし、またびっくり。アクセスが不便にもかかわらず、この街のアンテナの高さに驚嘆。やはり首相まで輩出した旧制中学の伝統と質の高さの所以と感じ入った次第である。



手話も混えて

私の話はリーフレットとして纏めているので御覧いただければ幸甚である。私の持論は「医療と教育、そして一次産業の活性化こそが地方創生の必須条件」であること。少子化、人口減こそが国難であり、北朝鮮など問題外であるということ。これを40年も前から全国行脚で力説しているのだが……。今、国会での首相の施政方針演説で「人口減が国難のようなもの」と初めて語った。時既に遅く、40年前にフランスと同じように始めていればと思うが、今からでも国民一丸となれば手遅れではないと信じている。私の講演が丹波市の街づくりに少しでも役立っていただけることを願っている。あの方々の顔を思い浮かべると、きっと大丈夫であろう。

手話で始まった講演会

赤穂での様々な実践に感銘

〈聴講記〉

常任理事 芦田敬一

今回の総会に先立ち、邊見公雄先生にお願いして講演会を行いました。会員及び丹波市の様々な人々に参加を呼びかけた講演会です。

邊見先生は、長い間赤穂市民病院で先生御自身の望ましい医療を追い求めてこられてきました。現在は、全国自治体病院協議会の会長（その後名誉会長）、そして兵庫県の参与などの要職をされておられ、地域医療を実地そして、全国視野で実践されてきました。平成31年には、県立柏原病院が発展的解消して、新しい医療センターが開院するにあたって、タイムリーなすばらしい演者です。

「皆さん今日は、私の名前はへんみです。赤穂市民病院の名誉院長です」この手話を習われたきっかけは、耳の不自由な婦人が、そのために自分の症状を訴えることができなく、結局手遅れになったという体験からです。講演会は、最初にこの手話でのあいさつから始まりました。

今回の「生命輝かそう丹波市民」の演題名のきっかけは、生命輝かそう赤穂市民病院から始まっています。このスローガンを抱えて働いていると、市民病院自体が変わってきた。それは、まず形からはいることも大事と述べられました。前半は、少子化の問題点とその対策、

教育と地元を思う大切さを述べられました。次に、現在の医療のおかれている状態（社会保障AI、マイナンバー）と全国自治体病院の活動状況を説明されました。そして、今までは、退院してどうするかを考えていたが、これからは町全体すなわち丹波市全体が病棟と考える病気になるかどうかあらかじめ考えておくことが大切であると述べられました。

後半は、赤穂市民病院の長い間の実践をとおして、先生がめざしてこられた病院を指し示されました。

まず病院は誰のためにあるのか、それは、リンカーンの有名な演説から「市民の、市民による、市民のための病院」で、病院はだれのためにあるかというと、皆さんのためにあり、今度の病院を生かすも殺すも皆さん次第でよろしく願いますということです。

また、赤穂市民病院の院是は論語の基本理念の「恕」です。人生で一番大切な

ことは何ですかと問われた孔子さまは「其れ恕か、己の欲せざる所、人にも施すことなかれ」とおっしゃっています。すなわち恕とは「女の人が子どもに口移しで、食べ物に分けるような優しい心」です。これはホスピタル（病院）の語源のホスピタリティと同じ言葉であるとかわりやすく解説されました。

赤穂市民病院の建築にあたっては、赤穂は海に近く、夕陽も美しく、病院から、それらの景色を見えるように窓を大きくしました。また、周囲の環境もよく散歩のコースとしても申し分はない。院内にも散歩出来るようなコースを作った。また、千種川の上流の木材を利用できるために、多くの木材を使用したとのことでした。チーム医療では、医療とは、エビデンス・ベイスト・メディスン（証拠にもとづく医療）であり、自分勝手の医療をするわけではない。チームには、責任者が必要ではあるが、皆で一緒になり情報を

受信・発信する必要がある。そして、連携作業が必要であり、連携とはサッカーのパスのように次に引き渡す人がやりやすいように、作業をすることである。そのような、考えのもとに、赤穂市民病院には、様々な院内チームがあるとのことでした。

医とは先生のお考えでは矢を取り囲む「はこがまえ」が現すのは、昔は医師、看護師、薬剤師の3つの職種で矢の傷を治すと理解される。そして、矢を丸で取り囲むものを表示され、今は30以上の職種が係っている。しかし、この取り囲みは完全に閉じることはむずかしい。本当は、矢の傷を回りで閉じて完全を目指しているのだが、その人の運とか様々なことで、そのようにならない。本当はそのようになるというですねといわれました。

赤穂市民病院独自の試みとして、安全いろはかるたを考えられています。多くの人の参加を得て大事なことを再認識で

きコミュニケーションを作ることが出来る。様々な例を取り上げられ、それぞれ印象に残る教訓でした。

開かれた病院として、様々なボランティアを受け入れると共に、開業医の先生と一緒に患者さんを診察したり、病院祭で市民の人々とか、姉妹病院で他院の医師とかに交流を計っている。

次世代の人々にたいしては、トライやるウィークで赤穂の様々な施設に訪問してその職場を体験して、これらの子供達のそれぞれの場へのモチベーションになるかと思われる。

そして、最後に、病院を中心とした街づくりを示されました。病院、医療系の施設を中心にして、公共施設、運動施設などが立ち並び、人々がその地域のなかで暮らして行く考えを示され、新しく開設される医療センターにその夢を託されました。

着実に活動を継続発展

100周年人づくり大賞の受賞団体その後

副会長 小田 晋 作

当会は1998年に百周年記念事業として「ひとづくり大賞」コンクール（賞

金総額310万円）を実施し、水上郡（当時）内6町の33の応募団体の中から「国際葛グリーン作戦山南」が大賞（賞金80万円）、「氷上町東地区国際交流協会」が準大賞（同50万円）、「氷上郡ジュニアサッカークラブ連合会」と「日本野外生活推進協会」がそれぞれ優秀賞（同25万円）に選ばれ、そのほか9団体に努力賞、20団体に参加賞が贈られた。20年の歳月を経て、事業の内容が変わり、名前を改めてところもあるが、優秀賞以上を獲得した4団体は現在もなお着実に活動を継続

発展させている。その後の足跡についてたずねた。

NEKKO

（→国際葛グリーン作戦山南）



イフガオの緑化状況を視察するIKGS緑化協会の瀬川理事（左端）、藤本理事（その右）ら＝2004年

フィリピン・ルソン島のピナツボ火山が1991年に大噴火し、火山灰で砂漠化した土地の緑化に役立てようと、津川兵衛・神戸大農学部教授の指導で93年に発足したのが国際葛グリーン作戦山南。町内の小中学生や高校生、老人会などの協力で町ぐるみで種子を集め、送り続けた。

現地で葛を植える手助けをしていた海外青年協力隊員の富田一也さんが97年にメンバーに加入し、駐在員に。村上彰代表、瀬川千代子理事らも現地を訪れて葛の生育ぶりを確認。狩猟を生業としていたが噴火で山から出なければならなくなった先住民族、アエタ族の自立を支援する団体とも提携し、アエタの人達を山南町に招いて交流した。水がなくても育つ葛によって肥えた土地には鳥が

戻り、生えてきた雑草を刈り取った跡に、植樹用の苗の移植が進んだ。苗の生育でも、山南町で集めた使用済み紙コップがポットとして役立てられた。同火山一帯は現在、マホガニー、白ラワンなど成長の早い樹木が一斉に茂り、かなりの部分が緑に覆われて来たという。

グリーン作戦山南はその後、「I K G S (国際葛グリーン作戦山南の略) 緑化協会」と名前を変えて、同じルソン島内の世界遺産の棚田のあるイフガオ地区に活動の場を移転。崩れた棚田や荒地地の植林を続け、篠山鳳鳴高校のインターアクト部の生徒らも大学生のボランティアと共に参加した。

イフガオでは葛の種は使わないので、山南町で種を集める活動はなくなったが、富田氏が理事長になった特定非営利活動法人「NEKKO」が植林を継続するとともに、江里子夫人が中心になって貧しい妊婦の出産、診療支援などの活動

を展開。かつてのグリーン作戦山南の役員らは第一戦から退いたが、国際貢献活動は形を変えながらも発展。

NEKKOの富田理事長は「活動資金として今も様々な企業、個人の寄付を仰いでいるが、何と言っても、初めに氷上郷友会の人づくり賞を頂いたのが、この団体が国内外に広く認知されるきっかけとなり、出発点になった。その意味でも大変感謝している」と話している。

丹波生郷国際交流協会

(ア) 氷上町東地区国際交流協会

1995年に発足。モンゴル・ウランバートル市内の小学校と交流し、日本語を学ぶ留学生を3か月間ホームステイさせ東小の子供と生活を共にしてもらった。約20年に渡って延べ36人に及び、一旦帰国後も日本の大学に進み、各界で母国と日本との架け橋となった人材も輩出

している。

ただ、モンゴル側の事情の変化により日本語の教科がなくなったりして日本語を学ぶ子供が減ったため、留学生の受け入れは2012年を最後に中断。その後、東小ではモンゴルほかネパール、オーストラリアの小学校との間でテレビ電話を使ってインターネットによる授業交流を重ねた。協会では同時にオーストラリア・メルボルンのオークリーサウス小学校に対して短期の交換留学を打診。同校には日本語教科があり全校生徒800人が日本語を学習。また日本人教師もいることから、継続的に行うことになった。

2016年から毎年1〜2月にオーストラリア校から、7〜8月に東小からそれぞれ10日間程度、受け入れと派遣をし、これまで3回ずつ実施。合わせて約70人が往来している。オーストラリアと日本は夏冬が逆で、一方は夏休み、他方は休暇でない時期なので授業にも参加でき、

成果を上げられるという利点がある。

大木保弘現会長は3代目。民間団体の事業として交換留学を続けている例は珍しく、「両校とも参加を希望する生徒が多い。資金的には厳しい面もあるが、これまで築き上げられた実績や伝統を引き継いで、さらに交流を深めていきたい」



東小、オークリーサウス校合同で体育の授業(昨年2月)

と話している。

丹波市サッカー協会少年委員会

(ア)氷上郡ジュニアサッカークラブ連合会

1990年に発足した氷上郡少年サッカーリーグを継続。現在は小学低学年(1-4年生)、高学年(5-6年生)各8チーム(丹波市内6町のうち氷上町3チーム、他の5町各1チーム)に増えた。5月から9月にかけて総当たりのリーグ戦をするほか、篠山、三田を含む丹有地区のリーグ戦にも出場。優勝して県大会にも再三出場している。

ほかにも市の体育大会のサッカー部門のカップ戦や招待試合、また京阪神のチームが丹波市内で合宿する際に応じる練習試合などもあり、さらに5人制のフットサルの大会なども加えると、「子供たちは大忙し」(余田亮一会長)。

それだけに指導者の養成も課題となっ



丹有地区の大会で元気にプレーする小学生ら(昨年)

ており、同会では数多い公式試合の運営の傍ら、審判員の育成、技術講習などに努める。最近では「以前にプレーした選手の中から、20代後半から30代前半になったOBの人達が各チームのコーチになり、若い力で引っ張ってくれている」といい、次代を担うサッカー人口の充実の

ために貢献している。

日本野外生活推進協会

子供たちに就学前から自然と野外生活への興味を持たせる教育をする。スウェーデンで100年以上の歴史を持つ



スウェーデンから講師を招いてリーダー研修会
(今年8月)

同名の協会を、同国在住の市島町出身、高見幸子さんが紹介して発足。以来、兄の豊氏が代表を務め、昨年25周年を迎えた。

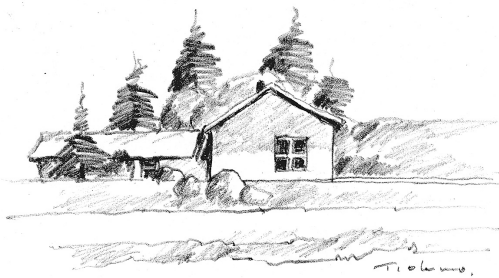
1〜2歳から小学校高学年まで5段階の年齢に合わせたプログラムが用意され、中でも5〜6歳児が対象の「森のムツレ」教室は、妖精ムツレを通じて自然を体感させるという方式で、同協会の別名にもなっている。

2014年に一般社団法人となり、地元のごども園「あいくの丘」を初め、拠点となるネットワーク組織は山形県から鹿児島県まで20カ所以上。60のごども園や保育園で教室が開かれ、リーダー講習を受けた登録者はNPOや大学、企業も含めて約2000人。

リーダー養成講習は毎年10回、各地で開かれ、今夏には市島にスウェーデンから講師を招いて行われた。また今年11月に奈良市で第6回目の全国シンポジウム

が開かれるほか、スウェーデンや英国で開かれた国際シンポにも参加。神戸での日本大会(2012年)では多くの海外からの参加者を丹波にも招いた。

高見代表は「子供たちを自然の中へと
いう趣旨を実現するために、丹波からの
発信をさらに進めたい」と話している。



F・L・ライト 遠藤新 三崎省三

甲子園会館余話

武庫川女子大学講師 上田 信也

二〇世紀の建築史に残るフランク・ロイド・ライトの愛弟子だった遠藤新が設計した、西宮市の旧甲子園ホテルが戦後、武庫川女子大学甲子園会館となり、関西丹波市郷友会の平成三〇年度総会の会場に予定されている。この機会にライトと遠藤、また帝国ホテル新館（現在は新本館建設時に解体され、一部が愛知県博物館明治村に移築再建）など、二人が設計した建築物について触れたい。

まず、ライト設計の旧山邑邸（芦屋市）について。ライトが帝国ホテル新館の設計の初打ち合わせに来日していた一九一

七年（大正六年）、助手を務め始めた気鋭の建築家、遠藤の仲介により、灘五郷魚崎の酒造家、山邑家の別宅として依頼を受け、一九二四年に完成した。遠藤の旧制二高以来の学友で法律家の星島二郎（後に衆議院議長）が山邑家の娘婿になったという縁がきっかけだった。

この邸宅は大谷石を内外の仕上げに多用し、ライトの建物に共通するヒューマンスケールの部屋が四層に渡って縦横に展開され、一連の家具と共に幾何学的な規律によって適度に引き締められている。ライトの建物は「プレーリー（草原）ハウス」とも呼ばれ、深い庇（ひさし）や水平線基調の外観が特徴で、ヨーロッパの古典のコピーではないアメリカ独自のスタイルを誇りとしている。これら一連の手法は一八九三年（明治二六年）のシカゴ世界博で展示された日本館の鳳凰殿の中に、ライトが日本建築の構成原理として発見しており、それが山邑邸にも

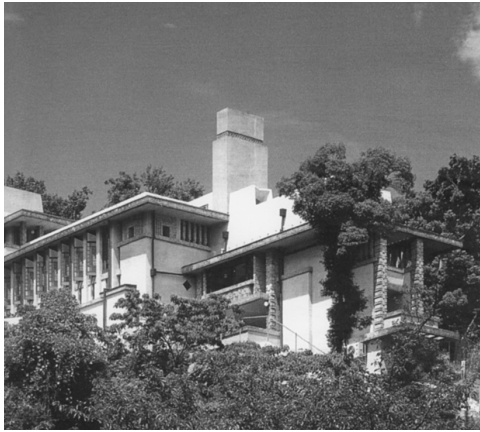


武庫川女子大甲子園会館の近影

活かされたと言える。

この名作は、大正時代の建造物としては初の国重要文化財の指定を受けた。戦後はGHQのクラブとして接収された後、マンシヨン計画や阪神大震災などの危機を乗り越えて現在は淀川製鋼所の迎賓館になっている。

次に帝国ホテル新館について。同ホテルは一八九〇年（明治二三年）、国賓などの宿泊、接遇のために国の肝入りで開

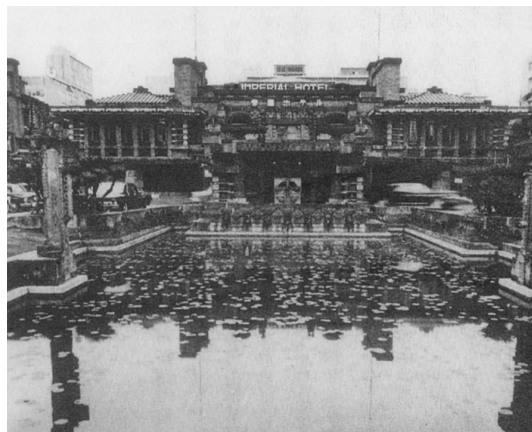


旧山邑邸（現在は淀川製鋼所迎賓館）

業した。しかし経営が捗らなかつたところへ、新たに米国古美術商界から支配人に迎え入れられた林愛作の尽力により業績が好転。一九一六年（大正五年）、古美術を通じて林と旧知だったライトが設計を委嘱されることになった。

ライトは林と旧知だった遠藤を助手に採用し、遠藤はライトに同行し渡米。一年半、ライトのもとで修業した。そして新館は一九一八年（大正七年）に着工したが、再三の設計変更で工期が遅れた上、工費高騰のため完成半ばで解任されるなどのハプニングもあったが、一人残った遠藤が責任者となって一九二三年（大正一二年）に完成を見た。

この新館に用いられた栃木県産の大谷石は、もともと関東地方では住宅の扉などに使われた安価で加工しやすい凝灰岩。柔らかい石なのでライトのめざす幾何学的な模様には細工しやすく、現場の職人たちもそれに応えた。ライトはその設



完成間もない頃の帝国ホテル新館

計に当たって「古き日本に負うところの多い芸術家として、その恩に報いる意味での日本の建築界への捧げもの」と述べ、当時東京に氾濫していた西洋風模倣建築物からの脱却を願っていたという。

ケルトの末裔のウェールズ系米国人としてのライトは神を唯一絶対とするキリスト教の宗教観でなく、自然の中に神性を感じる世界観を思考の根幹に置き、人

間の創造物（作品）と神の創造物（自然）との有機的完一性（融合）を目指していたとされる。

ライトが建築修業を始めた一九世紀末のシカゴは、世界の建築思潮の先端を走っており、師のルイス・サリヴァンの唱え始めた「形態は機能に従う」という機能主義建築の発祥地だった。機能主義は人間と自然との「動的」関連性を注視する認識論として、自己形成中の十九世紀米国に源流を持ち、その米国では鉄骨高層ビル、エレベータ、エアコンなど独自の技術が、従来の歴史主義的ヨーロッパにとって代わりつつあった。ライトは技術にも極めて明るく、後に遠藤に、日本の技術力の差を論じてこの戦争をやめるよう進言している。

さて、福島県の農家出身で苦学の末、東大工科を卒業した遠藤は、明治神宮造営局に勤めていた時に、帝国ホテルの林愛作の紹介でライトの知遇を得た。二人

は帝国ホテル新館の工事中に一九二一年（大正一〇年）、羽仁吉一・もと子夫妻の創設した自由学園明日館（東京）の設計に携わった。ライトは教育熱心な母親や私塾を開いていた叔母の影響により、フレーベルの教育玩具を通して自ら受けた幼児教育の重要性を理解しており、学園が一つの家族のような印象を与える空間を提案し、羽仁夫妻の求めに応えた。

この経験が契機になって遠藤は、旧制神戸商大（現神戸大）講堂や新制義務教育施設にも実績を残している。そして、遠藤の名を最も知らしめたのが甲子園ホテルなのである。

武庫川の氾濫対策としての支流改修に伴う余剰地を、阪神電鉄が払い下げを受けて生まれた甲子園の地は、沿線の住宅やリゾート開発で阪急電鉄の後塵を拝していた同電鉄が、後にタイガースの根拠地となる球場や遊園地など多角経営に取



グッゲンハイム美術館（ニューヨーク）建築現場でのライト

り組むに至って脚光を浴び始めた。甲子園ホテルもその一環として構想され、こ

こでも帝国ホテルから呼び寄せられた林愛作が活躍する。
当初は海浜リゾートホテルとして甲子園浜が候補地になっていたが、林は最新の米国技術による五連アーチの武庫大橋と六甲山頂との線上に位置する現敷地を

勧め、旧鳴尾村の溜池をホテル庭園用地として買い足すほどだった。これは、新設整備された阪神国道（2号線）で大阪方面から自動車で訪れる客を想定したもので、宝塚ホテルのようなファミリリーゾート型ではなく、東方面からの全国の客を、オリエンタルなどの既存の神戸のホテルより手前で待ち受ける高級リゾート路線を目指していた。また現在の芦屋や東灘、灘などには住友や野村などの財閥関係者、亡命ロシア人などの富裕層や文化人が多く住んでいたことから、これらの人々をターゲットにしたサロンのな利用も期待していた。

東西両翼の聳える四階建て、二千坪の同ホテルは、プライバシーの保てる巧みな動線計画や客の多様な嗜好に柔軟に対応できる和洋室の配置などの工夫を凝らしていた。また、食事のメニューには京都三嶋亭のスキ焼を飾るなど、贅を尽くしたサービスだったが、ベープ・ルース

も宿泊したこのホテルの性格がいま一つ曖昧だったこと、運営諸経費の高さや昭和恐慌の影響も加わって、一九三〇年（昭和五年）の開業からわずか十四年間で休業に追い込まれた。その後、海軍病院への転用を経て戦後はGHQのクラブとして接収され、一九六五年（昭和四〇年）、武庫川学院に譲渡された。現在、国の有形文化財の指定を受けている。

遠藤が設計したこのホテルについて師のライトは、出来栄えの良さを褒める一方、カーペットや家具のデザインについて若干の疑問を呈している。「図面を抱えてアメリカに来ればよかったのに」と後には評しているのである。帝国ホテルでは供給力不足で諦めた石川県産凝灰岩日華石をここでは用いるなど、師の求める水準を満たすべくできる限りの努力をして完成させた遠藤であったが、ライトにすれば、まだまだ完璧な作品には見えなかったらしい。

最後に、甲子園開発に寄与した一人の丹波人にも言及しておきたい。一九二二年、阪神電鉄が武庫川河川改修の余剰地の払い下げを受けた一九二二年（大正一年）に同社代表取締役（社長不在の専務）としてトップに就任したのが、氷上郡出身の三崎省三であった。

彼は東京の東洋英和に学んだ後、渡米。スタンフォードを経て工学教育の評価の高いインディアナポリスのパデュエ大学で電気工学を修めた。阪神入社後は技術部門で剛腕を振るい高圧給電化や車両鋼鉄化、また代表取締役就任後は球場建設や甲子園線の開設などを進め、阪神電鉄の多角経営化に貢献した。

球場計画時には、武庫川をヤンキースタジアムの近くを流れるハドソン川に見立てて立案するなど見識に富んだ経営者として、阪急の小林一三と比肩して評する識者もいる。

（建築家 市島町出身、宝塚市在住）

病院と市民の架け橋に

地域医療を考える会10年

丹波医療再生ネットワーク代表 里 博文



毎月開いているざわざわカレッジ

丹波医療再生ネットワークは、地域医療を考える会として、平成20年に発足し、10年が経過致しました。全国的に有名な「県立柏原病院の小児科医を守る会」のママさんたちが医療に関する問題で真剣に考えて様々な活動をしておられる中、医療界にいる我々に何ができるかを懸命に探さなければなりません。そのことが会設立の思いとなっています。地元開業医、歯科医師、薬剤師、市議会議員、新聞記者、元県職員、NPO代表などの有志の会です。その医療者と市民の有志の会だからこそできる活動があります。病院勤務の先生がたの声を市民に伝え、

市民の皆さんに地域医療を支えて頂くためのお手伝い、つまり病院と市民の皆さんの架け橋になれたらと思いをもち続けております。また、病院のドクターの方が丹波に来て仕事をやってよかったと思っ頂ける風土づくりを目標に活動しております。

われわれは、様々な活動をしておりませんが、その一つとしてざわざわカレッジという講演会を開催しております。丹波市の補助金を頂いて毎月第二火曜日午後7時30分から2時間ほど市の住民センターをお借りして集まっております。既に、ざわざわカレッジも84回、のべ4000名(平成29年11月現在)を超える方々にお越し頂いております。二部構成になっていて、第一部では毎回違う先生に来て頂いて、健康に関する様々な話題を取り上げて、専門性深くお話しして頂いております。今までに県立柏原病院の先生方、柏原赤十字病院の先生方や、

丹波ご出身の先生にも来て頂いて、興味ぶかいお話しをして頂いております。また、第二部は、地域医療の実情や情勢をお伝えして、それを読み解く視点を解説する時間です。丹波の医療を俯瞰してみるときに、どのようなことを考えて行動するのが良いかを考えていきます。

平成29年11月14日に開催しましたわざわざワカレッジでは、生体肝臓移植で世界的権威である田中紘一京大名誉教授に豊富なご経験をお話しして頂きました。生体肝移植でご苦労された話はもちろんですが、田中紘一先生のご講演の中で驚かされたのは、丹波地域での医療を大事にする活動のことをお話しされたことでした。それは病院の先生へ8年間毎週差し入れをされている春日の丹波医療支え隊の皆様のことを知っておられたことです。それを聞かせて頂いたわれわれも、丹波市を誇らしく感じました。そして、丹波市のように市民のみなさんの意識の高い所

だと、医療は萎縮せず実力を発揮できると仰っておられました。加えて、高度な医療でも、その医療を切望してくれる地域であれば、たとえ生体肝移植であってもその地域で実施できる事を田中紘一先生は教えて下さいました。

また、その日のわざわざワカレッジでは、今後聞いてみたい医療テーマや丹波市で新しく統合される県立柏原病院と柏原赤十字病院の病院に関するアンケートを実施したのでその内容をお伝えいたします。参加人数は44名、回答人数は36名でした。県立柏原病院と柏原赤十字病院の統合病院に対して「お願いしたいことは、何でしょうか。」という質問を複数回答可で致しました。36名中23名が新しい病院の先生にいろんなところで、お話ししてもらいたいという希望があるようです。このことは、病院の先生を招聘し、医療に関する講演を市民サイドで開催することが良いのではないかと思われまし

た。また、11名の方が、病院と地域をつなぐ公共交通機関をよくしてほしいとのぞんでおられます。

また、「県立柏原病院小児科を守る会」のママさんたちの様に、市民自らが出来るようなことをお伺いしたところ、14名の方が、患者としてかかることで応援すると答えておられています。これは、病院の若い先生方にとっては、皆さんが患者さんとして病院にかかることで、先生方の経験が増えることでこの地域を好きになって頂く目的があります。

あと、第107回の丹波市郷友会総会にて赤穂市民病院邊見公雄先生が講演された内容にあった取り組みと同じように、病院の方々にただお願いするだけでなくボランティアスタッフとして手伝ったり、周辺の草刈りなどの環境整備に協力するや、院内イベントをして盛りあげるといった意見にも票が集まりました。そして、出来るかどうか分かりませんが、

医療機器を充足してあげたいという事も必要とおもわれているようです。また、おもしろい内容では、丹波に住んで貰いたいので、お嫁さん・お婿さんをお世話するや、先生方の健康維持のために自家栽培の野菜などを持って行くなどがありました。

そのアンケートの自由記載には、特筆すべき意見がありました。それは、「何よりも県立病院を私たち（市）の病院との意識をもつこと。」でした。病院は、病気になる時まで必要であることが分からないことが多く、健康なときには、あまり気にしないことが多いです。空気や水の様になくってはならないものとして、大事にしていかなければなりません。ひとりひとりがその意識を持つことを熟成できる風土を作っていきたいものです。

医療を大切にしていくことに先進的に取り組んだ地域である丹波だからこそで

きることがあります。それを形にしている事ができれば、人口減少の今、丹波市が生き残って行く事が出来るのではない

でしょうか。

（氷上町で開業、西宮市在住）



丹波の記憶を原点に

恩返し的气持込めて制作

画家 笹倉鉄平

画家として絵を描く生業でおります今を、改めて振り返ってみますと、少し不思議な気分になることがあります。確かに、柏原高校生時代の放課後は、基礎のデッサンを日々繰り返しながらほとんど美術室で過ごしておりました。それでも、将来社会に出て後に絵描きとして“食べてゆく”ことなど、その頃には想像だにしない、現実感を伴わないことだと思っていたからです。

それでも目を追ううち、漠然とした形で「絵」に携わる職業に就きたいと意識をし始め、美大卒業後は広告業界で仕事

をしながら、余暇時間に少しずつ自分の「絵」を描く時間を作り、30代半ばで幸運にも画家デビューが叶いました。今思えば、高校時代に“描くことの楽しさや喜び”を仲間たちと共に体得した経験が、その下支えになっていたことを感じます。

そして、もう一つ原点に在るのが、幼少く青少年期を過ごした、穏やかでのどかな丹波での記憶です。

自然豊かな環境のもと、無意識に五感全てで感じ取っていた、身近にある四季折々のきらめきや、人々の暖かさ、心地

良さ等が、絵の構想を頭に浮かべる折にデジャ・ヴュ（既視感）の様に蘇ってくるものがしばしばあるのです。

私の描く絵にはヨーロッパの景色が多いのですが、実はこの少年期の貴重な体験が土台となり、“郷愁”とも言える想いです。一見、結び付けようの無いものと思われるかもしれませんが……文化・人種や形は違っていても、こうした“無垢で美しいもの”は、世界中どこへ行っても、これからも私の中に似た感覚を呼び覚まし続けるでしょう。

現代社会は加速度を増しながら変化を続け、そのスピードになかなかついていけないように感じる昨今……丹波での記憶は、正に現代人が“癒し”と感ずる心地良さに満ちたものでした。

(28ページに続く)



①



②



③



④



(26～27ページ作品)

①夢の解放

油彩／2001年制作／72.7×145.5cm

若い人たちに自由な発想や夢を大切にしたい、という想いを込めています

※柏陵会館への寄贈作品(玄関ロビーに展示)

②障子の葉影

パステル／2002年制作／57.0×76.6cm

丹波の実家近くでのスケッチを基に描きました

③こもれび～大切な景色は消えない～

油絵／2011年制作／53.0×53.0cm

イギリスの田舎町を描いた作品ですが、幼少期に丹波の小川で遊んだ記憶やイメージが色濃く入っています

④ゆっくり流れてゆく／ゆっくり過ぎてゆく

油絵／2017年制作／それぞれ33.3×24.2cm

丹波の記憶が礎となる、普遍的な“ゆっくり・のんびりの心地良さ”を描きたかった2枚連作です

(25ページより続く)

だからこそ、絵に込める想いの発露となる部分に、丹波で過ごした日々がこうして大きく影響しているのではと思います。多感な時期を丹波で過ごせたことは、時間が経てば経つほど幸せな恩恵であったと気付かされるのです。

最後に、2010年に発刊された拙著「ヨーロッパ旅の画集」の「あとがき」に書かせて頂きました文章の一部を、抜粋収録させて頂きます。綴ったのは8年も前のことですが、今現在もこの想いは変わらず……自分の絵画制作にいかにも丹波への郷愁が影響を与えているのかを再確認致しました。

何かと心騒ぐことが多く忙しい時勢の中で、心が深呼吸できるような、たまには立ち止まってリセットできるような、観る人が安らぎや幸せを感じられる

ような、そういった絵の世界を創造して
ゆけたら……と、今後もチャレンジを続
けてゆく所存です。

それこそが、「丹波人」としてできる
故郷への恩返しなのかも——という想い
と共に。

【以下、「笹倉鉄平 旅の画集（求龍堂
刊）」あとがき より抜粋】

近頃、旅先でふと思う——

ヨーロッパの片隅、初めての場所なの
に、なぜ懐かしい気持ちに胸に湧き上が
るのだろうか？

中世の面影残る街へと近づく列車の車
窓からの景色を眺めて蘇る——

子供の頃、初めて隣町へ向かっていた
時の胸の高鳴り

小雨降る旧市街、濡れた石畳の細い通

りを歩きまわりながらよぎる——

放課後の帰宅時、見知らぬ道に恐る恐
る踏み込んで行った時の新鮮な戸惑い

地中海に浮かぶ島の港で見上げた満天
の星空が——

いつしか故郷の空と徐々にオーバー
ラップしてゆく不思議

春の日差しのもと、教会の鐘の音と羊
たちの声を遠く聞きつつ草原で寝転んで
感じる——

転んで見上げた空を縁取っていた蓮華
草の匂い

夏の日に、素足で歩く小川の水面に揺
れ動く木漏れ日——

どこまでも高い秋空を透かして見た紅
葉の色——

降りしきる雪に顔を曇らせる大人達を
横目に、「積れ積れ」と願った雪景色——

——

子供時代、初めて見るもの、触れるも
の、全てが驚きと好奇心を満たす喜びに
満ちていた。

今では、掴めそうで掴めない感覚と
なって、遠い異国の地での旅情にそっと
忍び込んでくる。

目の前に広がるヨーロッパの風景を描
きつつも、別の姿かたちにして伝えて
う、としているのだろうか？

何事も難しく考えることなどしなかつ
た。あの頃を……

（山南町出身、東京都在住）

戦地への思い、歌と書に

厄神さんに生まれた『挽歌集』

原谷洋美



古い帯を意匠した表紙の挽歌集3冊

幼き日の厄神さんはワンダーランドで

した。年月の流れは遅いのか速いのか、平成三十年二月十七・十八日厄神さんの両日、柏原の町屋ギャラリー「るり」で「もう一人の私」展を開催することが叶いました。

神戸垂水の舞子ビラに集まり「いつか、もう一人の私を見せ合いたいね」と夢語りをしたのが平成十九年の春。それからゆっくと温めてきた企画です。「もう一人の私」とは厚かましくも、書や写真や布の花創りや、またはハーモニカやチェロ演奏やと、日々を暮らしながらもふっと自分を燃え立たせ、自分を内省で

きる創造の世界でしょうか。平たく言う
と趣味に他ならないのですけれど……。

舞子ビラに宿泊した、柏原高校二十回
生六人の「もう一人の私」が十一年を終
て、高校のすぐ近くで顔を揃えられたの
はとても嬉しいことでした。地元在住の
男性も仲間に加わっていただき、輪は更
に拡がりました。

実際に開催となると、さて私は何を見
せることが出来るだろうかと自問自答で
す。そんなある日、書家の藤原ひさ子さ
んから「丹波の仏壇下に、戦死した従兄
弟伯父に関する書類が眠っていた。それ
を書にしてみたいのだけれど、祖母や亡
くなった伯父を想うと泪が溢れて、読む
ことも書くことも出来ない。第三の眼
で、短歌に詠んで貰えないかしら」と話
がありました。「厄神さんでの会にも出
品してみたい」に救いを得て、書類一式
を預かったのが前年の十一月半ばのこと
です。

それらの書類の束は、書家のひさ子さんらしく『校本枕草子』の桐箱に白縮緬に包まれて入っておりました。静かに丁寧に解いてゆくと、虫の喰った生漉や色褪せた手紙や、広告ビラで手作りした破れた封筒やガリ版刷りの藁半紙や、やけに立派な菊の透かし紋入り証書やの数々。戦死公報であったり、帰りを待つ母への問い合わせだったり、情とはかけ離れた紙の束でした。その中に、戦死された橋間直治さんが留守宅のお母さんキヌさんに宛てた、几帳面な字の葉書。戦争に直面しながらも明るく温かい一葉に、清々しさを覚えました。

二月十七日に間に合わすためには、ひさ子さんが書かれる期間も必要、ならば一月十五日を最終締め切りにと、おおよその目標を立てました。戦後生まれ団塊世代の戦争を知らない私には、目が眩むような、胸が締め付けられるような、脳天を割られるような思いがけない書類ばかりでしたが、歌に詠む素材として取捨選択もし、それらを基に年表作りを一回目の作業として、また元の白縮緬にくるんで桐箱に納めました。

五月に逝去された由良琢郎先生に柏原高校短歌同好会で師事して以来、ことある毎に「人に読んで貰うためには、また依頼されて提出する場合は百首は詠みなさい」と教えられていましたので、年末年始の家事をこなしながら、醸されてくる思いを待ちつつ、言葉のかけらを拾いつづけました。

直治さんの葉書には「氷砂糖」「里の香のする吊し柿」とそれだけで短歌に詠める言葉がちらばっていました。『枕草子』も端緒となりました。「冬はつとめて」の章や「夏のはたる」の章などなど。「貴重な氷砂糖をありがとうございませ」と記してその後、数か月で戦死された直治さんは「こほりいろ」。六月に戦死の魂は「ほうたる」。書類の束に字の

見当たらぬ母キヌさんの秘めやかな息は和田村の「てふてふ」。それらをメモしながら、七草を過ぎ鏡割りの頃の二日間に一息に詠み挙げました。教えられた百首には及びませんでした。六十六首。

その中の一首でもひさ子さんの意に叶へばと願っていましたら、なんとなんと彼女は当日までに三十三首を、短冊や料紙や扇面色紙や、はたまたおむすび弁当の竹皮にも、それぞれに似合う景色に、たおやかでのびやかな或いは凜とした字で書き結び、古い帯を意匠した表紙の『挽歌集』三冊が生まれたのです。

手に取った友人が「恐山のいたこのようだ」と評してくれたのはありがたく、確かにしばらくはぶつぶつ呟いていたなと、ひょっとするとキヌさんの口寄せだったのかもしれない。

戦争に思いを巡らせ、当時の和田村に馳せ参じ、貴く重い二か月でした。戦争遺産あるいは哀しい心の遺産とでも言え

る事実は、人を惹き付け多くを語りま
す。戦争のない世の中であって欲しいと
強く願います。

「冬の衣袴」

里の香のするあの干柿と母上へ

言祝ぎをせし息子いとほし

母の手よ風よひかりよ干柿よ

戦ふわれの霊となるらむ

華やかに桜咲き満つ四月には

旅順に居ぬと早春かなし

清冷の岳麓山ゆ秋あかね

渡り来たりぬ精霊のごと

夏袴冬の衣袴折々の

息子の笑顔を顕たせし母は

氷砂糖喜びるたりし旅順の文

それから一年息子はこほりいろ

「和田村の六月」

目覚めよと枕草子の桐箱を

開けなば冬のほうたるひとつ

ふるさとに近き丹後の白縮緬

かなしみは花嫁のごとくくるまれ

和田村の六月黄蝶飛びたがひ

ゑんだう豆の花蝶が咲く

ぬばたまの夢なら良きに薄紙の

生漉に戦死の通告書かる

六月の戦死公報来たる宵

ほたるほのかにひかりゆきしか

記入して返送せよとの切取線

切りたる母は慟哭も切る

「白珠となり」

まる秘判が押さるる戦死公報よ

何を秘密にせよと言ふのか

遺骨まだ帰還せざると言ふその後

それから先の冬はつとめて

母宛の死亡通知が欲しからう

村を目指して星が降るゆえ

乳幼児体力検査票の裏に

戦死公報書かれ果なし

母の字も文も有らねどおほきなる

息子を守るやさしき溢る

天鼓もて打つ鏡餅のひとつかけら

母のこころの白珠となり

(山南町出身、東京都在住)

片山桃史の生と死（下）

一色 哲 八

《第一次応召》

昭和十二年七月七日、日中戦争の端緒となる蘆溝橋事件が起こる。同年同月二十七日付で桃史に動員下令。充員召集として八月三日歩兵第八聯隊に応召。編入されたのは第二十師団衛生隊車両中隊であった。兵種は「輜重特務兵」。日清・日露の時代は「輜重輸卒が兵隊ならば蝶もトンボも鳥のうち」と揶揄され、中国人苦力からも日本人苦力と馬鹿にされた。「輜重輸卒」改め「輜重特務兵」である。それは兵役義務の名で徴集されて事実上の強制労働者であった。

桃史が徴集されたその時は昇進制度も

なかったが、その直後の十月二十九日の改正勅令によりめでたく二等兵となり一応兵隊扱いされるようになった。十二月十五日には早くも一等兵に昇進。昭和十四年四月「特務兵」の名称も廃され輜重兵上等兵となるが担架中隊のいわゆる「衛生兵」であった。ただ、その書記能力が買われて記録係のような職務にもついていたようである。

担架中隊『北方兵團』より
葡ひすゝむ手をあげしは 傷者見つけしなり
擔架昇けりちきしょう 狙撃してやがる

兵庫県により開示された桃史の「軍歴」はその行動履歴が実に詳しい。釜山に上陸後一か月も経ないうちに北京郊外蘆溝橋すぐ南の良郷付近での戦闘が最初のものであった。三度の会戦を経て中国軍の後退により、桃史の戦闘のほとんどすべてが「掃討」「肅清」戦であった。一応平定された地域の残党狩りであり、潜在戦力への「討伐」戦であった。山西省を中心に移動を進めた桃史に昭和十四年十一月七日、南方戦線への侵攻を前にして「復員下令」が下る。その後衛生隊の残務整理のための拘束を受け、朝鮮において完全に召集を解除されたのは翌年の二月十七日のことであった。

《第二次応召へ》

まだ春浅き故国に戻った桃史は旺盛な俳句活動に身を置き、十月十五日付で句集『北方兵團』を三省堂から刊行する。全90頁、手のひらに軽く乗ってしまう小さなものであり、これが彼唯一の句集と

なった。

昭和十六年五月十四日、予備役在郷軍人として身体検査を受け、七月三十一日臨時応召として野砲兵第二十六聯隊に編入される。残されている写真等によると山西省最北部の大同（タートン）付近に滞留したことが確認される。

この5月14日に交付された桃史の在郷體力手帳をみれば、甲種合格であったことがわかり、「やや細みのやさ男」的イメージは払拭される。

臨時応召を受けたとき、桃史は三十歳直前であった。もはや「古兵」である。対米英蘭開戦は既定路線となり、十月十八日には東條英機内閣が成立。兵役法も改正され乙種のみな



撮影昭17/8/18。部隊事務室にて。この時は体調を崩して事務作業についていたようである。この写真の三か月後にはニューギニアに送られておりこれが生前最後のものか。

らず丙種までもが召集対象とされるに至った。桃史の召集は不可避当然のものではあった。

十二月八日未明、日本軍はマレー半島上陸、ハワイ真珠湾奇襲により太平洋戦争は口火を切った。翌年三月にはマッカーサーをフィリピンから叩き出し、「アイシャルリターン」の言葉を吐かせた。快調であった戦線も六月のミッドウエー海戦を契機に敗勢に転じた。

この頃桃史の属する第二十師団野砲兵

第二十六連隊は対ソ連戦に備えていたが、戦況悪化に伴い南洋戦線に動員されることになる。（以下、桃史と同じ野砲連隊の下級将校であった長友久義の手記『死の間隙』の記述から桃史の置かれた状況を推測する。）

野砲連隊はそもそも「馬部隊」であったが、大陸戦線とは違いニューギニアでは馬は無用の長物に過ぎない。野砲は軽便な山砲に代えられ、行き先を知らされぬまま運搬移動のための分解組立訓練に明け暮れることになる。ニューギニアは四千メートル級の山脈が貫き、多くの小河川が連続し、舞台となる北岸に平地はほとんどない未開の地であった。

各部隊は元旦明けから順次釜山港を出発。桃史を乗せた輸送船は二日か三日出発のようである。真冬の朝鮮から着衣を一枚つつ脱がねばならない南方行きである。桃史の所属する野砲第二十六連隊は、統括する第二十連隊の中でも最も早

く東部ニューギニアの西部ウエワクに一月十九日に到着上陸。待ち構えていた仕事は補給路確保のため空港の建設や山岳道路を切り開く人夫作業であった。

一月二日、最東端に近いブナにおいて既に南海支隊は全滅。桃史らがツルハシとスコップで裏道を開削する。八か月経過した頃、米・豪連合軍二万人はブナ西方フィンシハーヘンに上陸したため、第二十師団は道路工事を放棄し迎撃に向かう。戦う前から勝敗は明らかであった。マッカーサー率いる米豪連合軍はブルドーザーなどの工食用重機・戦車を先頭に豊富な物資を蓄えて怒濤の進撃。片や日本軍の食料は尽きかけていた。そしてマリアナなどの風土病から三割以上が病人と化し、実際に戦闘できるのは三千人を割っていたという。フィンシハーヘンの死闘は三か月に及んだが失地回復せず、十二月十七日には西方のシオまでの撤退命令が出されたのであった。

更にシオ西方のマダンへの撤退が焦眉の課題であったが、シオとマダンの中間点であるグンビ岬に米豪連合軍が上陸する。この時桃史達はシオ手前のガリ付近に滞留していた。15日から27日まで戦闘は中断していたという。進路を断たれた日本軍はグンビ岬での玉砕戦か戦闘を避けて山間部を撤退するかを選択を迫られる。食料がない状態ではどちらを選んでも兵士の大量消耗を覚悟せねばならなかった。

一月二十一日にはマダンへの撤退命令が出され、自力歩行ができない兵員に対して「遅留」を言い渡された部隊があった。「遅留」とは事態が回復次第救援されるのが本来の意味であるが、実際は「置き去り」以外の何物でもなかった。潜水艦による補給の試みは敵魚雷艇に阻止されたが、一月二十二日に奇跡的に潜水艦一隻がガリ港に到着。各種戦記により数字がまちまちであるが、第二十四

師団には一人当たり六合から一升五合程度米が分配された。勿論「遅留」兵士への分配はなかった。そればかりか撤退の命綱である足を守る「靴」を中心とした装備の略奪が頻発したという。

翌23日からマダンに向けて撤退が始まったが、背後のフィニステル山系は海岸に近く、最高峰のヨカバ山は富士山より高い3900米もあり山頂には雪が降っていた。ガリーマダン間は直線距離で150キロに過ぎないが、断崖絶壁が連続し、急峻な移動や迂回を含めると総動距離は500キロにも及ぶものであった。小河川の連続は行く手を阻み、スコールによる突然の山津波は餓死状態にある半病人兵士達を容赦なく襲った。この「死の行軍」も含め、総員二、四九二名いた野砲兵第二十六連隊のうち終戦時現地生存者は106名に過ぎなかった。そのうち三名は故国の土を踏めず、生存率は四・一％に過ぎなかった。

片山桃史の昭

和二十二年四月

四日付父の片山

作治宛の戦死公

報には「昭和十

九年一月二十一

日時刻不明（死

亡地不記載）に

於て戦死せらま

したから通知致

します。」とある。



大陸での桃史の軍装姿。風呂など夢また夢のニューギニアでは千人針は風の凄じい温床となり兵士を苦しめた。徒労ともいうべき手作業による風漬しを強いられ、それでもほとんどの兵士は千人針を体に巻き続けたという。

『死の間隙』の著者長友久義ら三人は昭和二十一年一月末の復員後、伊豆伊東で死没者名簿等の残務整理に従事する。その内の一人に桃史と面識のあった大東聰一郎がいた。父作治の照会に対する同年四月五日付回答書において以下の如く付記した。

「部隊が転進の為移動中「ガリ」に於て行方不明となられたのであります。色々***な**（*判読不明）をして

います但未だ判明致しません。……」さらに「机を並べて仕事をした関係上一番よく気心をお互いに知ってゐますが、只今は事務が忙しいので近い内に必ず模様をお知らせ致します。」とした。

この事後の「お知らせ」の手紙は片山家には残されていない。

広報の記す「一月二十一日」という死亡日に真実はない。単なる事務処理上決めざるを得なかった死亡日に過ぎない。調べてみるとおそらく同日死亡したとき

れる兵士は少なくとも三千人以上はいるはずである。

大東聰一郎は「ガリにて行方不明」になったと表現したが、その念頭に「遅留」がないはずはない。その「行方不明」を積極的に解せば「足手まとい」と拒否した「自決」の可能性すら想像させるのである。衛生兵として傷病兵の援護がいかに労力を要するか、分かりきっていた桃史である。まだ自決できる気力と体力が残っている段階であれば、自決を選んだとしても不思議ではないように思うのである。いずれにせよ片山桃史わずか三十一才五か月の短くも不運な一生であった。

たちねの母よ千人針は赤し
千人針はづして母よ湯が熱き
母よ子に千人針は今もある

（岡山県赤磐市在中）

網干の捨女さん

晩年過ごした寺を探訪

常任理事 芦田敬一

播州網干の龍門寺にきました。盤珪国師により創建された龍門寺は、揖保川の河口の川洲にある臨濟宗妙心寺派のお寺です。網干は姫路の外れにあり、隣は古来より瀬戸内海の手運で有名な室津のあゝる龍野市御津町です。

「田捨女さんの墓は浜田の龍門寺にあります。私の菩提寺です。捨女さんは祖母より子ども時からよく聞かされていきました」と知人は会報「たんば」で大きな声を発しました。思いがけない言葉にびっくりしました。そして何度も龍門寺と頭のなかで繰り返し、捨女さんのお墓が姫路の網干の浜田の龍門寺にあること

を覚えました。その場で、一緒に龍門寺にお参りをする約束をして、連絡を楽しみにしていました。

丹波柏原出身の田捨女さんの俳句「雪の朝二のじ二のじの下駄のあと」は丹波市出身の私にはなじみの深い俳句です。

私の生まれ育った青垣町は、丹波市の他の地域と比べ雪の多い地域でした。雪景色、みわたす限り広場も、畑も、道も、屋根の上も、木々の上も白一色です。その中、誰も歩いていない、ただ白だけの雪道をざっくざっくと進むと、後ろに深く長靴の跡が続きます。その時、俳句のように下駄ではこの雪道を歩けない

と、私はいつの頃からかそう思うことがありました。

播州網干駅に着き、知人の車で食堂を探して、姫路名物の生姜だしの効いた姫路おでんの昼食をとりました。その後、車は揖保川をこえて新舞子海岸につきました。正面に家島が見えます。

そのあと、もとの道、国道250号線をもどり、揖保川をこえて、河口側に曲がるとそこが龍門寺でした。山門をみると、ちり一つない玉砂利の広場で、上の方からピーピ、ピーピと絶え間ない小鳥のさえずりとばたばたと飛び出す音が聞こえます。正面の禅堂を左手にまわると、新旧の墓石が立ち並びその先に、木々に覆われた一角があります。そこには、三つ、縦長で上が太く下が細い、丸みを帯びた石塔があります。横には、白く小さな、案内板がみえ、田捨女の墓と書かれた文字を読む事ができます。

捨女さんは、42歳で夫と死別されてい



捨女の師、盤珪が創建した龍門寺

ます。それ以降は、時々、の気持ち様々
な和歌に託されています。
むかしもいまも物おもふは同じ事に
や、これをだにいまは形見と口すさび、
涙こそこひしき人のかたみなど読みけり
言葉よよそならず
我袖はあらしやしらぬ七とせも

ほさぬ形見の秋の夕つゆ

そして、仏の道を、丹波柏原、京都と追
い求められています。

秋風の吹くるからに糸柳

心ほそくも散る夕かな

京都で不生禅の盤珪国師にであい、追
い求めるのは、この道と悟られ、ここ網
干で貞享3年（1686年）に弟子と
なり、名を貞閑と改められました。その
時代には、有名な生類憐れみの令が出さ
れ、次に、江戸時代で最も有名な元禄時
代へと続きます。

私は、お墓の前で頭を下げました。そ
して、遠く江戸時代に思いをはせまし
た。笠をかぶり、黒い僧衣の姿で、手に
杖を握り、捨女さんは街道を歩いてお
られます。ギラギラと照りつける太陽の
もとでは、汗が全身よりほとぼしって
います。激しい雨の下では、黒い着物から
も水しずくがたれ流れてきます。また、
雲一つない青空のもと茶店で腰を掛けて

熱いお茶で一息です。丹波柏原、京都、

網干と長い道のりと長い時を経て、今こ
こです。その時、私は、自分自身の今こ
こを強く意識しました。そして、長い間
の後に頭を上げました。

次は不徹寺です。250号線にでて、
網干側に約50mのところを右折して、3
00mほど行くと、左手の林の中に寺院
がみえます。そこが不徹寺です。こじん
まりした門をはいり、左手に行くと、本
堂があります。当日は、町おこしの網干
ろまん街道まつりです。数人の人が受付
におられました。ここでは、姫路名物の
姫路おでんが出されていました。その日
は、郷土史家のKさんに案内して頂きま
した。Kさんは、捨女さんを偲んで、江
戸時代の加古川水運をたどって加古川線
で柏原に最近行かれたそうです。
今の不徹寺は捨女さんの死後2年目に
創建されたそうです。沢山の尼僧が盤珪
国師とそして捨女さんをしてきました



捨女が貞閑と改名して住んだ不徹寺

た。

うれしさもおなじころぞつきぬ世の

ちぎりしふかくすみ染めの袖

本堂では、仏壇でまずお参りをしました。その横には掛け軸がかけてありまし

た。捨女さんの座像です。細い小さな目、小さな口をきりっとむすび、黒く輝く法衣をまとった威厳のあるお姿です。それは、沢山の尼僧とともに、盤珪国師の前、説法を聞いておられるお姿でしょうか。それとも多くの尼僧の前で説法をされているお姿でしょうか。

座禅堂にも案内して頂きました。渡り廊下より裏手からはいると、そこは、立って半畳、寝て一畳の世界で、張りつめた気持ちになりました。ここには、網干の小学生の子ども達が、学校から座禅にくるとのことです。

ここ網干では、盤珪永琢国師は盤珪さんと呼ばれています。網干出身の禅僧で、江戸時代初期に、不生禅を唱えられました。そのわかりやすく説かれた教えに多くの男女、そして大名まで帰依したとのこと。

捨女さんは、不徹寺では、開祖として多くの尼僧を育てるとともに、盤珪国師

が網干におられるときはその説法を聴聞されました。そして、元禄11年（1698年）8月10日に円寂されています。

同年5月の最後の和歌は捨女さんすなわち、不徹庵首座の嶺雲貞閑尼の不生禅そのものなのでしょう。

天も地も御蔵となりて
もちゆれどつきぬ虚空と
慈悲はひとしき

今でも網干では捨女さんとしたわれ、平成30年より毎年7月24日に不徹寺で法要が行われるそうです。

〈参考とした書籍〉

『貞閑禅尼』藤本穂重著 春秋社

『絵物語 捨女さん』増田喜義著

網干歴史教育の会

（青垣町出身、尼崎市在住）

「関西語と関東語」考

沢木欣一氏の言葉噛みしめる

足立 幸信



細見綾子生家（青垣町）の前で

にはほど遠い。また著名な俳人で、関東出身で、関東在住という人はいくらでもあげられる。観念的には沢木先生の言は成り立つかもしれない、しかし、現実にはそういういうことではないのではないのか。そう感じた。そしてそのことはそれっきりにしていった。

もちろん両者の言葉や文化全般について大きな違いがあるらしいということはい私も知ってはいた。長年高校で古典を教えていて、徒然草一四一段「悲田院の堯連上人は」も何度も教えた。あの中に関西人（京都人）と関東人の、言葉、気質、行動原理等の違いが端的に語られている。

また、作家の住井すゑ氏の一文の内容で記憶に残っていることがあった。氏は茨城県に移住された当初の印象についてこんなことを書かれていた。関西（奈良県）では、男と女では言葉使いは異なっていた、ニュアンスも細やかな点まで配

三五年ほど前初めて沢木欣一・細見綾子ご夫妻にお会いしたときいろいろお教えいただいたことがあった。その中の一つで、その時には、理屈では分かるが、実際にはたいしたことではあるまいと軽く見ていたことがあった。関西語と関東語との違いということである。沢木先生はおっしゃった。「関西の言葉は柔らかい。関東の言葉はそうではない。だから関西の人のほうが俳句にむいているだろう。」と。

当時、私は「天狼」に籍を置き、天狼調一色に染まっていた。「天狼」での言葉や調子は硬質であり、やわらかという

慮されていた、ところが茨城県では様相が全く違っていた、一例を挙げれば男も女も、自分のことをオレと言う、初めのうちはかなりとまどった、後にはそれにもなれて当たり前のこととなったが、というような趣旨であった。この文に接したとき私は驚かなかった。やっぱりなあと思った記憶がある。

実は、私は、高校時代に小説の中でおなじような言葉使いに一度接していた。高校二、三年生の頃、たまたま目を通した新聞の連載小説の最終回にこんな場面があった。藤沢周平の小説で題名は覚えていない。本当に、たまたま、最終回のその日に限って目にしたのであった。草の民という一族か集団に関する人々の話のようであった。男の主人公が思いを寄せている女性に、はっきりと思いを伝えない。煮え切らない男に女はこう言っただけ。「ええい、じれったい。お前はオレが好きなのか嫌いなのか」。私はし

びれた。こんな風に率直になれたらいいな、と憧れた。私の脳裏に今もこの場面は鮮明に残っている。女性の、男への好意が隠さず表されている。自分のことをオレと言っていることにも惹かれた。藤沢周平と言う作家名もこのとき覚えた。信州が舞台になっていたように思うが五三年前の記憶だから定かでない。この時、日本の各地方で言葉は一樣でない、様々な言葉使いがあって、それぞれに魅力的なのだ、という方言観、言語観、価値観、が私の中で固まった。

横へそれるが、今も私は高校で教えていて、女生徒達同志合い言葉や隠語のよくな感じで お互いに、オマエ、オレなどと言いついて聞かせることがあつた。仲間うちで 親しみを込めて言っているようだ。一般社会でこんな言葉を聞かされたら、知らない大人はぞっとするだろう。校内でのよく知っている者同志の間での会話として耳にすると微笑まし

く感じることもある。それは、気を許して自分の内面の姿を飾らずありのままにさらけだしているその信頼感や心の通い合いのようものが、私にも伝わってくるからであろう。

大阪の女子大学で教えていた時にも、創作の授業の文章で女子学生達は主人公を男に設定して、自分自身が主人公になりきり、ボクはと書き進めていることがあつた。書き手が夢中になり、現実には果たせない自己実現を文章の中で果たし救われている姿がそこにはあつた。

今年(二〇一七年)はテレビの国会中継やニュースを見ていて、言葉と、それを発している人間のこころの在り方について毎日のように考えさせられた。特に政治家や官僚の心の在り方や生き方、平気で嘘やごまかしを言い続けられる精神構造について。それらとは別に某女性国会議員の発した言葉もよく流された。「このーはげー」「ちがうだろうが」という

ような言葉であった。女性がこんな言葉
使いをするということも驚きであった
が、「ちがうだろうが」という関東の言
葉使用についても考えさせられた。「ち
がうだろう」は関西では「ちがうやろ」
という。「だ」と「や」の一言の違いは
言葉の硬さ柔らかさという面で大きな相
違をもたらす。

また今年には山崎ナオコーラさんという
若い女性作家の小説をまとめて五、六冊
読むことができた年でもあった。新聞紙
上に連載が始まると予告記事が掲載され
ていたの、それまではそのかたかな名
のペンネームに恐れをなしてこの作家を
敬遠していたのだが、こんな硬派の新聞
が連載を依頼する作家なら信用できる作
家に違いないと思ってその日のうちに図
書館で借りてきたのだった。全部面白
かったのだが、ここで、私は、またして
も関東の言葉ということに考えを巡らさ
ずにはいられなくなった。小説中で女性

が使う言葉がいわゆるため口というの
か、私から見れば男言葉のようなのであ
る。

連載中の『趣味で腹いっぱい』（一
月一五日付）から引く。「ほらみる」「新
人賞だとか、単行本だとか、そういうも
のに振り回されているから、純粹に小説
を好きでいられなくなったんだ」「上を
見なければいいんだよ」。仲の良い普通
の夫婦間の会話ではあるが、関西人の私
にはこの妻（三〇代だったかの女性）の
言葉使いは男性のそれのようにみえてし
まう。こういう言葉が小説中に溢れてい
る。

東京でも年齢や世代の違いによって、
女性の言葉使いにも流行ややはり廃りが
あるのかもしれない。あるいはナオコー
ラさん独自の言葉使いや用語法、言語観
があつてのことなのかもしれない。今
度、東京の人に会ったら教えてもらいた
い、いやナオコーラさん本人に出会える

機会が万に一つでもあつたら直接尋ねて
みたいし、お礼も言いたい。何十年ぶり
かに関西語と関東語について考える機会
を与えて頂けたし、沢木先生がおつ
しゃつた言葉には私が思っていた以上に
大きく重い意味があつたのではないかと
考え直させてくださったのだから。

夕月夜みやらびの歯の波寄する

あこのころ沢木先生が沖縄でお詠みに
なつた一句である。言葉に柔らかさと優
しさがある。沢木先生の人柄の優しさが
滲み出ているようだ。「言葉は人」。こ
んな格言はなかつたかも。なかつたとし
たら私の造語です。）

（青垣町在住）

郷土愛、日本の心を子供達に

学校での反応に驚く

能楽大倉流小鼓方 上田敦史



明治以降、日本が西洋化の道をひた走って久しい。今や国民の日常生活に純日本文化と言える何かを取り入れることは困難となってしまうが、この風潮の中で有難いことに学校音楽教育に和楽器や邦楽を取り入れるよう義務付けられて

はや15年以上になる。日本には多くの伝統芸能・音楽があるが、わが国の歴史的にも、また国際的な観点においてもユネスコ世界無形文化遺産一号に認定されている「能楽」が日本文化を今に伝える伝統芸能として大きな役目を果たさなければならぬ。世界に類を見ない1300年の歴史を有する能楽を音楽教育に取り入れることは、音楽的感性を伸ばすことのみにとどまらず、子供達に多くの気づきを与えることに寄与できると確信している。

ではこの西洋音楽全盛の世でなぜ伝統音楽教育が必要なのか。我々は海外公演

でヨーロッパ各都市を訪れることも多く、現地の観客と交流する機会がたびたびある。どの国でも自国の伝統芸能や文化と比較しながらそれぞれの良さを話す。お互いに自国の文化を芯に持っているので片言の英語でも大いに盛り上がりたりする。教育に伝統音楽を取り入れることによって、世界中の音楽の素晴らしさを日本人の価値観や誇りを持ちながらより一層深く味わう事が出来ると思うのである。

ただ現実に音楽の先生方が和楽器を扱い、邦楽授業を行うのには大きな壁がある。大方の音楽教師は西洋音楽しか学んでおられないのだ。我々能楽協会は子供達に能楽を普及するために日夜活動している。その一環で近年、先生方に集まってもらい、ワークショップ形式で謡や囃子の楽器体験、鑑賞会を開催している。その際、意見交換の機会を設け、「授業ではどのように能楽を扱っています

か？」この問いに、ほとんどの先生は「自分たちが良くわからないことは授業では扱えない」とある意味で納得の答えである。能楽を扱うと答えた一部の先生もほぼ資料映像を見せるだけという具合であった。

このような機会に参加して下さる先生方はまだ有り難い。我々は文化庁の事業などで各地の小中学校を訪ねて、これまで多くの子供達に能楽に触れてもらっているが、開演前によく先生から「高らかな能なんか（……）観たことのない子供がちやんと鑑賞できますかどうか」「私でさえ能なんか（……）縁がなくて初めて観るのに」などと言われることがある。日本の様々な文化を内包しながら育まれてきたはずの伝統芸能がそれ程遠い世界の謎の芸能になっているのだと少しがっかりする。私の師匠はこのよくある反応をジョークと皮肉を込めて「能ナンカ症」と命名している。

さて先生方の心配は杞憂に終わり、公演前と後での子供たちの変化に驚くことになる。最初は目の前に現れた紋付き袴の集団にポカーンとしていた子供たちが、間近での迫力ある実演や楽しいお話、全員での謡やお囃子の大合奏などの体験を経ていくと、しまいには休憩時間でもあちこちから謡の声や「ヨー！」「ホー！」というお囃子の掛け声が聞こえてくる。最終的には先生方や見学の保護者まで一緒に楽しんで終えることがほとんどで、初めてなのにじっくりくるとか、お囃子の音色がDNAの深いところに響いたなどは良く言っていた言葉である。ちょっと大袈裟かもしれないが、やはりみんな日本人なのだと安堵する。

丹波市在住の私が今年から開始した取り組みがある。まず丹波市シテイプロモーションの一環として丹波猿楽発祥の地である丹波の歴史上の人物や物語を、

地元ゆかりの作家と協力して、能・狂言に創りあげて地元の子供達と共に演じ、発信していくこと。

そして音楽の先生が授業で使えて、一緒に楽しめる「子供のための能楽教材」の作成である。まさに能楽初めの一歩といえる教材は、小学生低学年でも理解でき、習得でき、かつ身体いっぱい楽しめるものでないといけない。もちろん大人である教師も是非一緒に楽しんでもらいたい。このささやかな体験がいつか実を結び、子供たちの理解が進めば、きっと能楽の根本が世界平和・五穀豊穡・寿福増長を祈念する人間賛歌であることに行き着く。世界に発信すべきはまさにこの部分なのである。

これらの活動が上記の問題を克服し、子供達の郷土愛を育み、日本の心を世界に発信していける人材教育の一助となれば幸いである。

（豊中市より氷上町に移住）

次代に伝えたい童謡・唱歌

ベスト30曲、みなで歌う

常任理事 田中なほみ

私は4年前から丹波市立植野記念美術館友の会「うた友倶楽部」で毎月一回童謡・唱歌を会員の皆さんと共に歌っています。参加者は毎回約45名ですが、男性会員の参加もあり魅力的なメンバー構成です。又同時に館内の展示作品を鑑賞できることも大きな魅力です。

この倶楽部が発足したきっかけは、2014年秋の「原田泰治ふるさと展」でした。個々の作品から、なつかしいふる里が感じられ幼いころに歌ったなつかしい童謡・唱歌がよみがえりました。来館者の方々もそれぞれの昔を懐かしまれたことでしょう。又、展示期間中にあ

ふる里をあなたにと題して「はもりべ」のミュージアムコンサートが開催され、来館者の皆さんを更に童謡・唱歌の世界へ引き込みました。

引き続き、2017年秋「原田泰治が描くにつぼんの童謡・唱歌展」が開かれました。今回は記念イベントとして、みんなで歌おう「私の好きな童謡・唱歌」と題して、来館者の皆さんの心の中に生きている童謡・唱歌を投票により選んでいただきました。選ばれた人気の高い30曲を二日間、みんなで歌おうという試みです。多くの参加が得られるのか？心配しながら当日を迎えました。しかし、心配をよそに、丹波市内に留まらず三田市、西脇市、福知山市からも参加いただき、会場が一杯になり、童謡・唱歌が多くの方々に愛されていることを実感いたしました。

初日は、30位から15位までの曲を歌っていきました。学芸員より作品の背景に



「私の好きな童謡・唱歌」で指導する筆者

ある童謡・唱歌と作品を重ねながら説明を聞き、より一層情景を思い浮かべながら歌うことができました。

また曲が進むにつれて会場内が和やかな雰囲気になり、遠慮がちだった歌声が会場内にやわらかく響くようになりました。

来館者一人ひとりが参加型のこのイベントは、それぞれが主役となり盛り上がっていきました。二日目は14位から始まりいよいよベスト3の発表です。同点2位は、朧月夜と早春賦でした。そして、注目をあびた1位は「里の秋」でした。

二日間を通して、それぞれのふる里を思い出しながら歌われていた参加者の様子がとても印象的でした。

童謡・唱歌は、明治時代学校で教えるための曲として文部省が作りました。作詞・作曲者を公表しなかったため、作詞・作曲者不詳の曲が多いのはそのためです。又、時代の変化に伴い歌詞が変更さ

れた曲、外国の曲に日本の国文学者が歌詞をつけた曲もあります。このように変化しながら現在に至りましたが、今もお教科書に引き継がれている曲が数々あります。その中でも、朧月夜、春の小川、春が来た、もみじ、ふるさととは高野辰之作詞、岡野貞一作曲です。お二人のコンピの曲が多いことは大変有名です。

現在では「くつがなる」「七つの子」の曲名はもちろん、歌詞やメロディーも知らない子どもたちが多いのが現実です。日本のふるさとの歌、心の歌を次代の子どもたちに大人の私たちが繋いでいきたい！そんな思いで一杯です。

(氷上町在住)



心に残る美術館に

「友の会」と共に楽しむ

植野記念美術館前館長 山中直喜

丹波市役所、氷上中学校の並びにある
この美術館は植野藤次郎氏により199

4年（平成六年）十一月に竣工され、旧
氷上町に寄贈され丹波市が引き継いでき

ています。

当時そのオープニングで植野氏は
「この美術館が、地域文化の発信基
地となって、故郷の人々の誇りとな
りますように」と述べられるととも
に「子供たちにこの美術館で本物を
見せてやってくれ。」と思いを語ら
れたそうです。その後二十四年が経
とうとされていますが、4階のテラス
から見える加古川沿いの風景は今も
昔と変らぬ自然が残っており、丹波
らしさを表わしているようです。し

かも館自身その美しい姿は来館者に「素
晴しい」と感激を与え続けています。

こういった環境の中で、私が得た芸術
の楽しみ方ですが、美術館で開催される
展覧会はもちろんのこと、植野氏の考え
方から見えてきた楽しみ方を真似ること
でもありました。その考え方は、中国と
の文化交流を進められる中で、「日本と
中国との友好は、口先だけでは駄目で、
具体的な物、特に芸術作品を通じて行わ
なければならぬ。例えば家庭に中国の
花瓶が一つあれば、それを通じて中国に
対する親愛の情が生まれるであろう」と
いうもので、コンクールなどを主催し作
家の育成支援も行われてきました。

私はお金もないのですが、この想いが
何と無く心地よく響いたのか、安い中国
の景德鎮で作られた陶芸品の買い物をし
て部屋に飾ってみました。先ず変わった
のが家庭での話題でした。奥様から「誰！
こんな物買って来たの」との御発声。そ



「世界ネコ歩き写真展」の岩合光昭さんの
講演は大盛況（今年8月）

ここで、これには訳があって、購入の意図を言い訳すると、ブツブツいいながら彼女はその壺の向きを変えてみたり、置く場所をずらしてみたり。家には何点か複製の絵画や小物が並ぶようになっていますが、不満の声は上がらなくなってきました。でも目はもう良い加減にして、と言っているようです。

そして次に楽しめるのが、美術館友会の活動です。丹波は昔から多くの芸術家を輩出している地でもあります。私を知る範囲でも常岡文亀・幹彦、山本茂斗・萌、安田鴨波、川端謹次氏等、その他にも多数の物故、現役芸術家の皆さんがおられます。その流れの中、芸術を楽しみたいという方々約三五〇人が加入されています。美術館の展覧会はもちろん、イベントの支援や他の美術館や芸術的箇所を巡る年間2回の国内外の研修旅行、そしてまた歌が大好きという方々で「うた友倶楽部」も結成され、それぞれの分野

で楽しむことができるころは大変魅力です。

美術館ではこういった人とのつながりや広がりもあり、最近では市外からの来館者も増えてきました。少しずつ植野記念美術館の企画が広まって来ている。来館のアンケートには「田舎にこんな素敵な展覧会を開催する美術館があるなん

で。」と嬉しいことが書かれるようになっていきます。

平成三十一年度で二十五周年を迎えます。今後もどうか皆さんの心に残る美術館になってほしいと心から願うばかりです。

(青垣町在住)



生きている時間確かめる

コラム「やすらぎ」39年

清水雅子

丹波新聞連載のコラム「やすらぎ」は、今年で三十九年目となりました。三十二歳の頃、専業主婦で三人の子育て中だった私は、自分の考えや思いを新聞の家庭欄や読者の声の欄に投稿、掲載されると父に送りました。当時丹波新聞社長だった父が「そんなに書くことが好きなんやったら、載せてやるさかいに書いてみいや」と言ってくれました。嬉しくて最初に書いたのは「春の花」という短い文章。

平成十二年に初めて出した拙書「極楽の余り風」にも入っています。

次女がまだ二歳、なかなか自分の時間

ももてず、定期的に書くことはできませんでした。書けたときだけ送り父母のオーケーが出れば掲載という程度で始めました。

最初の十年間は、殆どが子育て中のことばかりでした。長女が生まれて四カ月になった頃、新居を今の各務原市に建て夫の親との同居が始まりました。両親とは比較的うまく暮らしていましたが、明治生まれの舅はなかなか厳しく、我儘に育った私には辛い日々もありました。そんな時、同じ苦勞をしてきた姑が優しかったのはとても有難いことでした。

できれば辛いことは書きたくなく、丹

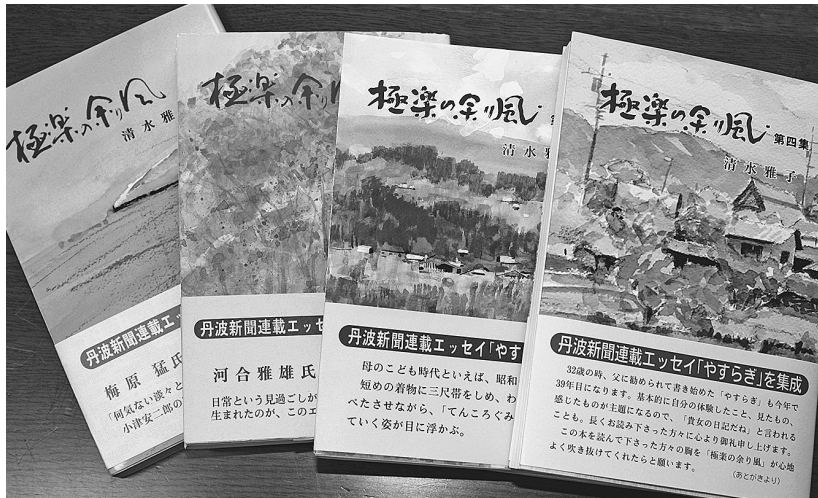
波で過ごした子ども時代の思い出や家族のことも良いことだけを書いていました。

次女が幼稚園に入り、その一年後、水泳のインストラクターを志し、少しずつ社会と関わりがもてるようになった頃から「やすらぎ」も少しずつ変わりました。

元々好奇心が旺盛な性格、言葉の語源や植物の由来、また社会の仕組みに対しての疑問など知ることの愉しさを知り、また楽しくなりました。自らを「疑問符おばさん」と呼んだりして。

「極楽の余り風第二集」は平成十五年に出しました。当時は「やすらぎ」を週二回書いていたので、第一集から三年後に出すことができました。

二〇〇五年の三月三十日、父が八十七歳で天国に召され、母が遺されました。この頃、所属していた俳句結社の同人となり、編集部の手伝いを始め多忙になりました。「やすらぎ」も週一度に減らした。



「極楽の余り風」第1～4集

てもらい、日曜日掲載の今の形になりました。

丹波でも句会を立ち上げ、最初の一年

母のことも時代といえは、昭和短めの着物に三尺帯をしめ、わたさせながら、「てんころくみていく姿が目に見えかぶ。

母のことも時代といえは、昭和短めの着物に三尺帯をしめ、わたさせながら、「てんころくみていく姿が目に見えかぶ。

母のことも時代といえは、昭和短めの着物に三尺帯をしめ、わたさせながら、「てんころくみていく姿が目に見えかぶ。

母のことも時代といえは、昭和短めの着物に三尺帯をしめ、わたさせながら、「てんころくみていく姿が目に見えかぶ。

母のことも時代といえは、昭和短めの着物に三尺帯をしめ、わたさせながら、「てんころくみていく姿が目に見えかぶ。

母のことも時代といえは、昭和短めの着物に三尺帯をしめ、わたさせながら、「てんころくみていく姿が目に見えかぶ。

母のことも時代といえは、昭和短めの着物に三尺帯をしめ、わたさせながら、「てんころくみていく姿が目に見えかぶ。

母のことも時代といえは、昭和短めの着物に三尺帯をしめ、わたさせながら、「てんころくみていく姿が目に見えかぶ。

母のことも時代といえは、昭和短めの着物に三尺帯をしめ、わたさせながら、「てんころくみていく姿が目に見えかぶ。

母のことも時代といえは、昭和短めの着物に三尺帯をしめ、わたさせながら、「てんころくみていく姿が目に見えかぶ。

母のことも時代といえは、昭和短めの着物に三尺帯をしめ、わたさせながら、「てんころくみていく姿が目に見えかぶ。

母のことも時代といえは、昭和短めの着物に三尺帯をしめ、わたさせながら、「てんころくみていく姿が目に見えかぶ。

（柏原町出身、岐阜県各務原市在住）

小学5年まで住んだ柏原

店の並び、地図のように記憶

荻田美代

織田家の鶴姫様がお住いだったという
柏原の大手通りの家に、両親の荻田庄五

郎、晃子と長女道代が住み始めたのは、
昭和6年頃でした。



自宅の前で弟と小学生の私

姉道代の話によると、廊下の戸

に鶴の絵が描かれていました。門
を入った所に池があり、四季折々
の花が咲き、石に苔が生えていま
した。その庭を掃除することを、
父は母にも子供たちにもさせな
かったそうです。自分以外の者が
すると苔をはがしてしまうからと
いうのです。

私が産まれた昭和19年頃には、
一家はすぐ近くに移っていまし
た。私は五年生の時に大阪に引っ

越すまで崇広小学校にお世話になりまし
た。私の生涯で一番印象に残っている時
代は、この柏原の家での生活です。色々
なことが懐かしく思い出されます。

秋の運動会の日、登校時に霧が出てい
ると、お天気になると喜んで家を出る。
子供たちを見守るように立っている柳の
大木の下で、1年から6年生まで一人ず
つ出場する部落対抗リレーで走り、優勝
しました。

母の手作りの木綿袋を持って椎の実を
拾いに行きました。フライパンでから煎
りしてもらい、美味しいおやつになりま
した。お祭りに母が何本も作ってくれた
鯖寿司の味は忘れられません。作り方を
教わらなかったのが残念ですが。

古市場は今、静かな通りになりました
が、当時のお店の並びをほとんど全部覚
えていて、地図が書けるほどです。鍛冶
屋さんの隣にアイスクャンデー屋さんか
あり、買いに行くのは足に自信のある私



崇広小学校の校庭に大きな柳の木があった

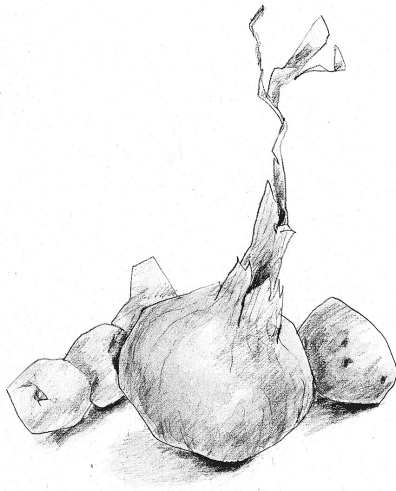
の役目。アルマイトのお弁当箱を持って、溶けないように飛ぶように走って持ち帰りました。

大相撲の地方巡業で旅館「霞月」に千代の山関が泊まっていると聞き、出て来るのを友達と長い間待ちましたが、くたびれもうけに終わりました。今も相撲が

好きで、父が教師をしていた関西学院出身の宇良を応援しているのは、そんなことが影響したのかも知れません。

書いてきたのは、ほんの3、4年の間の出来事です。余程自由で、楽しい毎日だったのでしょう。

姉の加代が小学生の時、「氷上郷友会賞」を頂き、それが励みになったと、よ



T. S. L. W. 1950

く聞かされていました。それで私もよくわからないなりに、「郷友会」の名前を憶えていました。小学5年で転校したため、当時の友達は今も少なからずいますが、正式な同窓会に招かれたことはありません。歴史のある郷友会に一昨年から参加させて頂いて、心から嬉しく思っています。

(宝塚市在住)

丹波で働けた幸運

文化の違いと共通性を認識

〈山口直樹訳〉

丹波市教委 前ALIT

ジェシカ・ブラツェック

わたしが日本に来てからほぼ2年が経ち、帰国の時が近づいているとは信じられません。楽しい時はあつという間に過ぎてしまうとよく言われますが、それは本当です。ここでは何もかもが順調だっ

たとえばウソになるでしょう。ここに来るまで、わたしが日本についてほとんど何も知らなかったのは事実です。日本人や日本文化についてあまり知りませんでしたし、わたしが知っている日本語と



例えば「こんにちは」ぐらいでした。わたしの言語能力が飛躍的に向上したとは言わないまでも、今はなんとかやっていきます！ 地理の授業で日本について学習したことを思い出します。東京の小さな一人用のアパートや四角いスイカを見て、日本はイギリスとなんて違うんだろうと思っただけでした。

わたしが日本のALIT（英語指導助手）にならなかったのは、大学を卒業した後、海外で暮らしたからです。無目的な旅行よりもっと形のあるものを望んだのです。日本は生活水準の高い先進国のように思われました。さらに、最初あまり知らないことに飛び込むのは、とてもわくわくするような何かがありました。日常的にすしを食べることになると思うだけでしたが、カリフォルニアロールが本物の日本のすしではないということを知って最初はがっかりしました。

わたしはまた、日本はどこも技術的にとても進んでいて、ロボットが買いつけ手伝ってくれたりすると思っていました。それで、少なくとも丹波では、そういう非常に進歩した日本という固定観念は全くのウソだということがわかって、とてもショックでした。また学校の建物や教え方がとても古いことに驚きました。信じられないことに、先生方がいま

だに黒板とチョークを使って授業をすることが多いのです！けれど、その古い見かけの内側には、わたしが共に働いた多くの先生方の生徒に対する献身がありました。

わたしは生まれて初めて自活する機会を得ました。故郷ではできなかったかもしれなことです。わたしには正式な教員経験はない代わりに、日本の生徒を教えるのを手助けし、別の文化や生活様式を紹介するために、エネルギーと熱情にあふれて日本に来ました。そして日本の子供たちは世界のどこでもわたしが経験したことがないような親切と尊敬、愛を示してくれました。小学校での忙しい一日の帰り道、疲れた足をひきずって、でも心は愛にあふれている……得難い経験です。

また、日本中を旅行しました。この美しい国の様々な景色や各地の文化や人々に出会うのは素晴らしいことです。有名

なニセコのパウダースノーでスキーをし、石垣島の熱帯の海で泳ぎ、屋久島の神秘的の山々を歩き、その他、様々な所に行きました。最近では春休みに友達と九州縦断の自動車旅行をしました。福岡城の敷地を歩いた時、私たちの頭上で風にやさしく揺れるふわふわの桜の花の無限の海をわたしは決して忘れないでしょう。

イギリスと日本の文化の違いはあまりにも大きいので、大小様々なカルチャーショックを受けたのも当然です。都会で迷子になり、何度も電車を間違え、時には食べ物注文の間違えました。それから随分学習しましたが、非常に多くの日本の方々がわたしに示してくださった親切、善意、寛容にとっても驚き、謙虚な気持ちになりました。みなさん数え切れないほど、迷子になったわたしを助け、わたしのために通訳をしてくれ、時にはすばらしく温かい言葉をかけてくれました。これらの有意義な小さなふれあいを

よく思い出し、どこよりも心の温かい人々が住む、本当に美しい場所、丹波市で働いたのはなんて幸運なのかと思います。

もうすぐイングランドに帰りますが、グローバルマーケティングに関わる仕事を続けたいと思っています。この国での経験と獲得した見識を文化交流と学習を進めるために役立てたいです。今は以前よりももっと、世界中の文化の違いを理解し認識するために働くのは重要だと考えています。この経験で学んだことがあるとすれば、それは、だれかが自分とどんなに違っているようにみえてもたいしたことではない、必ず共通部分があるのだから、ということなのです。そして、世界の政治と現在の状況にもかわかわらず、わたしは、人は本来善であると信じています。たまたま発見した日本が最高の場所であったことに感謝しています。

(30年8月に英国へ帰国)

米国との交換留学50年

柏原高校、中断を乗り越えて

岸田 功

皆さんは、丹波市の県立柏原高校に於いて、高校生の1年間海外交換留学が50年の長きに亘って続けられていることをご存知でしょうか？

実は、柏原高校出身（1962年卒15回生）の私自身も、丹波市を長く離れていたため、このような国際交流が行われていることを、6年前までは知りませんでした。6年前の2012年の夏に、丹波市内の中学3年生の男女生徒10名を引率して、米国への10日間ホームステイの国際交流事業に参加させて頂いた際、アメリカ側関係者から、色々と過去の経緯を伺い、彼我間には、2つの若者を対

象とした国際交流事業があることを知りました。

その概略を説明しますと、一つは柏原高校が1966年から行っている高校生1年間交換留学であり、後の一つは丹波市国際交流協会が1999年から続けている中高生の夏休み期間を利用した10日間の相互ホームステイ事業です。いずれも相手先は、米国ワシントン州セント市とオーバン市になります。

話は遡りますが、1960年代の初め、戦後の日米親善を促進する目的で、日本の47都道府県とアメリカの47州（現

在は50州）が個々に友好関係を結び、市民レベルでの交流が始まりました。その時、兵庫県はワシントン州と姉妹提携を結び、同時に両者の最大都市である神戸市とシアトル市が姉妹都市になりました。更に、両者の公立高校が互いにパートナーとなつての文化交流がスタートし、柏原高校の相手としてセント市のセント・メリディアン高校が選ばれます。

1964年には、セント・メリディアン高校の教師が柏原高校を訪れ、高校生同士の1年間交換留学が提案されます。そして、多くの困難を乗り越えて、1966年からこの制度が動き始めます。柏原高校からは、セント・メリディアン高校に第一回留学生として男子生徒（吉田勇司さん）が渡米し、そして、セント・メリディアン高校からは女生徒（キャサリン・スコットさん）が柏原高校にやってきました。そして、このような高校同士の交流が契機となつて、

1968年には、柏原町がケント市と姉妹都市関係を結ぶこととなります。そして、遅れること6年、柏原町に続いて春日町がケント市の隣町であるオーバン市と姉妹都市提携をします。

私がケント・オーバン両市を訪れた2012年に於いては、10日間のホーム



ケントメリディアン高校の卒業式で。畑祐希さん（左より2人目）とラルフさん（現ケント市長、左端）らホストファミリー

ステイ事業は円滑に継続されてはいるものの、高校生の交換留学は8年間の長きに亘って中断されており、アメリカ側関係者（ケント・オーバン・タンバ姉妹都市提携委員会）から、再開の可能性に就き打診を受け、その要請を持ち帰ることになりました。

帰国後、今まで高校生留学に携わってこられた先生方と関係者、及び留学を経験された人たちに、アメリカ側の要請を伝えると同時に、皆さんの意見をお伺いしました。連絡を取らせて頂いた方々の全員から、交換留学を直ぐにでも再開すべきとの熱い意見を頂き、交換留学再開の必要性とその意義を新たにしました。

そして、改めて、柏原高校を訪問し、当時の村山美生学校長にアメリカ側の要請を伝えることになりました。村山校長は、その場で、再開に異議のないことを表明され、アメリカ側にも学校側の意志を伝えました。唯、米国内で海外留学生

受入れに係る許認可が厳しくなり、教育委員会の認可を受け、更に公的留学審査機関の受入れ許可が無ければ留学は実現しないことが判明し、その後、ケント市及び、オーバン市の教育委員会との折衝に1年半を費やし、漸く、2014年に再開に漕ぎつけることが出来ました。この出来事が契機となり、現在に至るまで、裏方として交換留学のお手伝いをさせて頂いております。

高校生の交換留学の意義とは何でしょうか。私は、個人的には国際親善が先にあるのではなく、何よりも、まだ固定観念に染まっていない高校生が、異国で、文化や、言葉や、思考方法等々の違いに遭遇し、それを乗り越え、アメリカでの生活を楽しみ、そしてアメリカが持つ多様性と個人主義からくる行動様式に触れることに意義があると思っています。同じことは、アメリカから丹波市に

やってくる留学生にも言えます。早く、日本語を覚え、友達やホームステイ家族との会話が理解できるようになった上で、アメリカと日本の色んな違いを発見し、整理して行く作業の中で日本文化の特色と日本人の思考方法を感じ取ってもらえればと思っています。

交換留学は1名対1名の形で行われていますが、実は、たった1名の留学生が学校内で他の生徒たちに多様な影響を与えている事実を忘れてはならないと思います。一人の留学生がクラスの中で、校内で多くの生徒たちに直接、間接の影響を与えているのです。一人の留学生が居ることによって、生徒たちの意識が変わります。語学のこと、海外やアメリカのこと、喜怒哀楽の表現、物事の観方や考え方と自己表現、将来志向など広い分野に及びます。

今までの留学経験者は、柏原高校で33

名、アメリカ側で32名に上ります。これからOB・OGの皆さんは、日本と米国の多岐に亘る分野で活躍しておられます。その中で、一人の方を紹介させて頂きますと、現在、ケント市(人口12万5000人)の市長であるデーナ・ラルフ女史は、1987年度の留学生で、氷上町幸世でホームステイし、丹波での生活を体験された方です。デーナさんには、2014年度の柏原高校の留学生(畑祐希さん)のホストファミリーも引受けて頂きました。

現在、県下の公立高校で交換留学を続けているのは、実は、柏原高校だけです。同時期に交換留学を始めた高校で、引き続き、現在も交換留学を続けている学校は他にありません。それ故に、柏原高校で育ち、根付いた取組は今後とも継続して行かねばならない事業であり、単に柏原高校のみならず、丹波市と言う地域に於ける文化事業であり国際交流事業であ

ると思います。

解決すべき課題もあります。アメリカでの留学生受け入れ制度が、2011年の同時多発テロ事件を契機として厳しくなったことに端を発して、留学生が負担せねばならない費用として新たに米国籍調査費用が加わり、留学経費も倍増してきています。学校には、留学制度のための特別の予算措置が無い中、留学費用の増加は留学生の個人負担の増加になっているのが現状です。更に、アメリカ留学生の丹波市内での受け入れ先が一般家庭になる場合、受け入れ先に対する支援も必要になってきますが、学校には、そのような特別費用をカバーする特別予備費も無いのが実情です。

このように問題は抱えながらも、今後もこの交換留学の取組の進化と深化に向けて、尽力出来ればと思っています次第です。
(柏原町在住)

明るく陽気なイタリア人

『滅公奉私』にあきれつつ

アートコーディネーター 中川 真 貴

イタリア人をからかう笑い話がある。

「神様はイタリアという国を創造するといふ偉大な功績を残された。しかし、一つだけ間違いを犯された。それはこの地にイタリア人を選んで住ませた事だ」一笑できるが、そこまでジョークにしなくともイタリア人のことを気の毒に思うのは、彼らに対する愛着からだろうか。

イタリアに住んで25年になるが、イタリア人についてもその文化についてもほとんど理解できていないのでは、と思う出来事に出くわすのは日常茶飯事である。遡れば紀元前8世紀のエトルリア

人、壮大なる芸術や文化を今に伝える

ローマ人を起源に持つイタリア人を、たった25年で理解するのは無理があるのかもしれない。今回は私が知る範囲のことを書きたいが、それはイタリアのほんの見出しに過ぎないことをお断りしておこうと思う。

私の住んでいる



友人とのホームパーティー（左端筆者）

フィレンツェは、旧市街全体がユネスコ世界遺産で、15世紀にルネサンス文化が花開いた街である。イタリアのどんな小さく無名の街であっても、何百年と受け継がれて来た外観を守るために住民は、さまざまな規則や条例を受け入れている。例えば、建物の外観の色に関しては、屋根瓦、壁、窓、パラボラアンテナの色

まで規制があり、内装を交えるにしても市役所に申し出て許可を得なければならぬ。名所旧跡だけでなく何処に行っても風景や町並みが美しいのは、がんじがらめの規則によるものである。そのような厳しい規則を作ったのも、またそれを頑なに守って来たのもイタリア人であるとすると、イタリアに彼らを住ませたという神様の選択は、さほど



古代ローマ時代のライオン像（フィレンツェ・シニョリア広場）

大きな過ちでなかったと思われる。

よく言われるイタリア人のイメージといえば、アモーレ（愛して）、マンジャーレ（食べて）、カンターレ（歌って）。恋人や友人、家族とワインを片手に美味しい食事をしながら、何時間も楽しく語り合って、そして歌って人生を謳歌するのがイタリアンスタイルと言われる。

日本でも週末くらいはイタリア人のよ

うに過ごすというスタイルが定着してきた。中世から侵略や強奪に繰り返し遭ってきたためか、イタリア人は「今を生きる、今日を生きる」がモットーで、日本人の基準からすると、とにかく明るく陽気である。

会社はもちろん、銀行や役所でも、話し声や笑い声が聞こえてくる。カウンターなどで次に待つ人のことはお構いな

しに個人話に興じるのもしばしばで、そのうち周囲の人たちも加わっての大雑談が続く。無駄話の多いイタリア人たちだと呆れてしまうが、そんな中からも付き合い合いが広がっていくようだ。大人数が一緒に机を並べて仕事をしている日本の大

部屋のあの静けさは、イタリア人には驚異的に思えるに違いない。

その程度ならまだしも、調子が良く、仕事もいい加減で口八丁手八丁というイメージに関しては、あまり擁護できない事実である。実際に発注した商品が約束の期日には到着しない、それどころか、発注商品の中に注文していない商品が入っていたり、不良品が入っているのも特別なことではない。

また予定していた展覧会やイベント会場が急に一方的に変更されるなど、想像を絶するようなどんでん返しがある。怒り心頭の日々を送ったことも、日本的な思考がまったく否定されてしまったことも度々だが、何故か最後はうまく事が収まるのにはいつも感心する。これは、イタリア人の隠されたたかきによるものであるということがわかって来た。その例として、自分達に不都合があった時に彼らが必要という言葉がある。「これ

は私の責任でない、私には関係のない事だ」これはイタリア人だけでなく、他のラテン系の国々でも同様に言われる言葉である。これが日本人と根本的に違うところで、日本人が滅私奉公なら、彼らは滅公奉私なのである。そして最後のオチが「ここはイタリアだからね。仕方ないね。Siamo in Italia (私たちはイタリアにいるのだから)」。

このイタリアも目まぐるしい世界情勢の中、例外ではなく移民のるつぼとなってきた。統計によると、イタリア総人口の28%が登録して在住している外国人だそうである。4人に1人が私も含めて外国人、不法滞在者を入れると3人に1人が外国人である。

もはやイタリアは伝統的なイタリア文化だけでは語れなくなってきた。最近の神様は、過ちを正そうとされていらっしやるのか、多様な人々をイタリアに住まわせる事にされたようだ。一筋縄では

いかないイタリア人だけでなく、言語も文化も異なる様々な国の人たちと付き合

う毎日には刺激に満ちている。

(山南町出身、フィレンツェ在住)



T. ...
...

丹波にとつての「平成」時代

市民力の高まり実感

小橋 昭彦

平成が終わります。

丹波地域にとってそれはどういう時代だったのでしょうか。

ぼくはそのすべてを体験として知っているわけではありません。それでもお許しをいただいて、ぼくかなりの視点で平成時代を振り返るなら、「市民の時代」と表現したいと思います。この三十年は、丹波地域にとって、市民力が高まり定着した時代であったと考えるからです。

新しい市民社会

この時代に新しい市民社会が生まれたのは、丹波地域に限った話ではありません

ん。ちょうど平成に入った頃から、経済

や政治とは独立したものとして市民活動が存在すると認識されるようになり、平成七年の阪神・淡路大震災「ボランティア元年」を経て、平成十年にNPO法が制定されました。

その頃から、「公」と「私」の二分論ではなく「共」があるという考え方が広まり、「協働」という言葉が用いられるようになりました。

丹波地域では一足早く行政と市民の協働が始まっています。昭和六十三年、住民代表による「一〇〇人委員会」によって「丹波の森宣言」が起草され、平成元

年、「丹波の森構想」が提案されました。

平成の丹波は、丹波の森とともに始まったのです。

市民活動の萌芽期

構想に基づく具体的な動きは、当初は公的なものが多かったようです。平成三年「ふるさと桜つつみ回廊」、平成五年「さんなん仁王駅」、平成六年「丹波悠遊の森」整備、平成七年「シューベルティアーデたんば」開催などがそうです。

一方で、平成二年に「森のムツレ教室」や「東芦田村おこしの会」、平成六年に「清住コスモスマつり」など、市民発の活動も生まれています。

平成十一年に兵庫県丹波県民局が市民活動実践組織「ビジョン委員会」をスタートさせました。その効果もあってのことでしょう、平成十三年には「いちじま丹波太郎」や「たんばぐみ」といったNPOが設立され、同じ年に「地域通貨・未

杜」の活動が始まっています。平成十四年には創作オペラ「おさん茂兵衛」が上

演されました。



地域誌の編集方法などを学んだ地域プロデューサー養成講座

軌道に乗った市民活動

ぼくが丹波市にUターンしてきたのは、この頃のことです。帰郷と前後して仲間と地域情報化プロジェクト「ソフトアップかすが」を始めた（平成十三年）、地元集落で「里山ウォークデイ」を開催したり（平成十四年）と、順調にスタートできました。これも丹波の森宣言から始まる先輩方の活動があったからこそと、今になって思います。

その後、多くの「市民活動」が生まれていきます。平成十五年「バイオマスフォーラムたんば」「鴨庄ふれあいバス」、平成十六年「神楽の郷」「福田おいやか村」、平成十八年「たんば・

田舎暮らしフォーラム実行委員会」「Tプラス・ファミリーサポート」、平成十九年「県立柏原病院の小児科を守る会」「循環型まちづくりネット」「企業組合つたの会」、平成二十年「奥丹波蕎麦人會」「丹波医療再生ネットワーク」など。

市民の交流と移住者たち

平成二十二年に日本語版が登場したツイッターやフェイスブックなどのソーシャルメディアは、市民活動に欠かせないツールになりました。ぼくは平成二十二年、「哲学カフェ」を始めています。リアルな場でも、市民同士が交流する「カフェ的」な場が求められていました。

平成二十三年は東日本大震災のあった年です。地域おこし協力隊の制度化が平成二十一年ですが、この頃から、若い移住者が目立ち始めました。平成二十四年から二十五年にかけては、若い移住者が

住むシェアハウスが、丹波市で多く生まれました。

ぼくが移住者ばかりが働く会社「近所」を本格的に稼働させたのも平成二十五年です（現在は退任）。そこで開催するセミナーや丹波市による「地域プロデューサー養成講座」などに、多くの移住者が集い、熱気が充満していたのを思い出します。

平成の先に

今では丹波市内各地で、若い移住者らを中心に多くのイベントが行われています。一方で、活動が細分化され、交流の場が無いという声も出ています。こうして振り返ると、平成の前半を支えて来られた先輩方の市民活動は、地域課題や社会問題とより深く関わってきたようにも感じます。

丹波市では二〇一九年、市民活動

の支援拠点が開設される予定です。この機会にあらためて、平成の丹波地域の市民活動を振り返ることで、未来の市民社会へのヒントをつかめるのではないのでしょうか。そんな狙いから現在、「激動

の平成」その時「丹波」は動いた」と題する、地域づくりの先達と語るトークセッションが連続開催されています。平成の先の丹波地域。あなたならどう描きますか？

（春日町在住）



「激動の平成」セッション第1回目（今年9月、丹波の森公苑で）



ぬぬぎさんぼそう
奴々伎神社の三番叟

監事 足立 壽宏

(表紙の写真も)



(右) 千歳と黒式尉の問答
(下右) 父尉の舞
(下左) 翁の舞



丹波市水上町稲畑210に所在する
奴々伎神社には毎年秋祭りとして10月の
体育の日に三番叟が奉納される。

奴々伎神社は由緒によれば仁和887
年に地震で倒壊したとの言い伝えもあり
非常に古い歴史を持った神社である。祭
神は高皇産靈大神、誉田別神、御年大神
とあり、境内には稲荷社、春日社、山口
社が小宮として祀られている。

さて稲畑の式三番叟がこの稲畑の地に
伝えられたのは約150年前のことで、
当時奴々伎神社の神官であった大原美能
里が稲畑に伝えたと言われている。ただ
保存道具（使用されている古面）にはそ
の年代を特定する銘なく、伝来の年代を
確定する事が出来ない。

同じ水上町にはいくつかの式三番叟が
伝承されており、特に隣村の佐野地区の
三番叟は稲畑の三番叟と非常に似通った
ところがある。そのほか上新庄、青垣町
にも三番叟がある。

稲畑式三番叟は四つの場面からなる歌
舞伎色の濃い舞であり、第一部は露払い
の二番叟の「千歳の舞」、第二部は翁の
面をつけた「白式尉」（翁の舞）、第三
部は三番叟役の面をつけない「父尉の
舞」、第四部は黒式尉の面をつけた「鈴
の舞」である。三人の「踏み子」のほか
に黒い蚊帳幕の中から影打ちで小謡、大
謡、鼓、笛が控え、舞台の左前には後見
人の拍子木が待機する。

踏み子は二番叟を小学校低学年の子供
が務め、翁を青年が務め、三番叟を小学
校高学年で務め構成されている。

これらは奴々伎神社の秋の例祭「稲畑
式三番叟」の能楽舞台で、当時は天下泰
平、子孫繁栄、長寿、雨乞い五穀豊穰な
どを願って、少年たちが演じる能楽であ
る。

昭和48年に丹波市無形文化財の指定を
受けている。



正面入り口の割拝殿



割り拝殿の中央通路をつないだ舞堂(本殿側から)

編集後記

「たんば」第3号が、発行できました。発行するにあたって、今回も実にたくさんの方々に、お世話になりました。貴重な経験や行動をもとに文章にして頂いた方、日ごろの思いを綴って戴いた方など、実に多くの方々に寄稿していただきました。

「たんば」第3号が、発行できました。発行するにあたって、今回も実にたくさんの方々に、お世話になりました。貴重な経験や行動をもとに文章にして頂いた方、日ごろの思いを綴って戴いた方など、実に多くの方々に寄稿していただきました。

多額の広告料を出していただいた皆様

報を発行することができました。厚くお

報を発行することができました。厚くお

名誉顧問	足立	立塚	良久	平喜
〃	大岡	崎川	昌泰	三洋
〃	中深	田田	充秀	啓雄
〃	有田	小田	恭晋	子作
会長	芦田	立田	栄士	一逸
〃	足池	畑尾	廣隆	郎司
〃	磯大	槻佐	知康	子博
〃	岸公	田江	昭景	茂景
〃	清水	中な	ほみ	行利
〃	田野	村口	晴忠	利樹
〃	山山	山口	直洋	子吾
〃	山山	名立	純壽	敏宏
財務理事	足立	立立	立立	敏宏
監事	足立	立立	立立	敏宏

関西丹波市郷友会 役員

からも力強い支援を頂きました。誠にありがとうございました。また今回も、丹波新聞社の皆さまには、多くの力を貸していただきました。専門的な知識も技量もないので、ばらばらの原稿をお渡しするだけで、原稿の並べ方、体裁、写真の入れ方など、実にたくさんの方々にお願いしました。ありがとうございます。

数多くの皆様のおかげで今回もこの会報を発行することができました。厚くお礼を申し上げます。来年は関西丹波市郷友会が発足してから120周年になります。第4号はその記念号にしたいと考えています。さらなるご支援をお願いいたします。

会報委員長 山口 直樹

会報委員 芦田 敬一 足立 直正
大槻佐知子 小田 晋作

岸田 康博 高田 温美
田 恭子 仁藤 欽嗣
山口 直樹 吉見 弘文

広告目次

協賛ありがとうございました。(敬称略)

サンキン……………裏表紙	富田畜産…………… 82
三協運輸……………表表紙裏	丹波総合石材…………… 83
丸十ロッカー……………裏表紙裏	喜 作…………… 84
まちづくり柏原…………… 68	ル・クロ丹波邸…………… 85
武庫川女子大学…………… 69	有田産業…………… 86
中兵庫信用金庫…………… 70	エス・ディー…………… 87
JA丹波ひかみ…………… 71	サンキンB&G…………… 88
敬 愛 会…………… 72	丹波新聞社…………… 89
小曾根病院…………… 73	やながわ…………… 90
円 応 教…………… 74	岡林写真館…………… 90
大地農園…………… 75	大 仏 堂…………… 91
山名酒造…………… 76	オオツキ…………… 91
土田商事…………… 77	清水一級建築設計事務所…………… 92
木 栄…………… 78	丹南茶寮…………… 92
オーケンウォーター…………… 79	たんばコミュニティエフエム…………… 93
グリーンライフコーポレーション…………… 80	KABURA 丹波布の店…………… 93
オフィスキムラ…………… 81	関東氷上郷友会…………… 94



ロマン城下町かいばら

私たち株式会社まちづくり柏原は、地域住民の声を聞き、柏原の歴史文化にあったまちづくりに取り組んでいます。「丹波市らしさ」「柏原らしさ」を大切に、住民たちによる様々な活動により生まれる魅力によって、柏原を訪れる人や新しい住民を増やすきっかけになると考えます。

私たちは地域開発のプロデューサーとして、多くの人々と連携しながら精力的にまちづくりを進めます。



■テナントミックス事業



■町なみ環境整備事業



■関西学院大学連携事業

代表取締役：荻野吉彦 (荻野与作商店 代表取締役)

取締役：土田博幸 (㈱土田商事 代表取締役)

：前川隆正 (㈱丹波の森ショッピングタウン 代表取締役)

：岡林利幸 (㈱オカバヤシ 代表取締役)

：土田光一 (㈱土田化学 代表取締役)

：菊本裕三 (きくもとグラフィックス㈱ 代表取締役)

：黒田好信 (黒田測量設計㈱ 代表取締役)

株式会社まちづくり柏原

〒669-3309

兵庫県丹波市柏原町柏原688-3

TEL:0795-73-3800

FAX:0795-73-3801

HP: <http://www.kaibara.org/>

最近のテナントミックス事例 (テナント管理11店、指定管理1ヶ所)

● 工芸の店 KABURA



「中心市街地再興戦略事業」の補助金を用いて空き店舗を改修し、平成29年10月にテナント施設として完成。丹波市に伝わる伝統の丹波布をはじめ、春日町鹿場の竹細工や名塩和紙など、数多くの工芸品を取り扱っています。

● とり料理専門店 ととり



「中心市街地再興戦略事業」の補助金を用いて空き店舗を改修し、平成29年12月にテナント施設として完成。木の温もりを感じるおしゃれで明るい店内は、女性や若い方、ご家族連れでも入りやすくなっています。店長おすすめメニューはこだわりのつくね。



2019年4月、教育学部が誕生!

武庫川女子大学は7学部14学科に。

大 学

文 学 部

日本語日本文学科
英語文化学科
心理・社会福祉学科

教 育 学 部

教育学科
(2019年4月設置)

生 活 環 境 学 部

生活環境学科
食物栄養学科
情報メディア学科
建築学科

健康・スポーツ科学部

健康・スポーツ科学科

音 楽 学 部

演奏学科
応用音楽学科

薬 学 部

薬学科
健康生命薬科学科

看 護 学 部

看護学科

短 期 大 学 部

日本語文化学科
英語キャリア・コミュニケーション学科
幼児教育学科
心理・人間関係学科
健康・スポーツ学科
食生活学科
生活造形学科



武庫川女子大学
武庫川女子大学短期大学部



〒663-8558 兵庫県西宮市池開町6-46
TEL 0798-47-1212 <http://www.mukogawa-u.ac.jp/>

武庫川学院は2019年、
創立80周年を迎えます。



あなたとまちとフェイス to フェイス

中兵庫信用金庫

理事長 足 立 厚 郎

〒669-3693
兵庫県丹波市氷上町成松226-1
Tel (0795) 82-8850(代)

ゆ め
希 望 と



う る お い の あ る

ま ち づ く り

 JA丹波ひかみ

代表理事組合長 大 畠 良 樹

〒669-3461 兵庫県丹波市氷上町市辺 440

TEL:0795-82-0170 FAX:0795-82-3658

URL : <http://www.ja-tanbahikami.or.jp/>

医 療 法 人 敬 愛 会

理事長 大塚 久喜

本部 〒669-1333

兵庫県三田市下内神525-1(三田高原病院内)

TEL(079)567-5107

救急病院

大塚病院

〒669-3641
兵庫県丹波市氷上町絹山513

介護老人保健施設

ひかみシルバーステイ

〒669-3641
兵庫県丹波市氷上町絹山523

療養型医療施設

三田高原病院

〒669-1333
兵庫県三田市下内神525-1

療養型医療施設

三田温泉病院

〒669-1353
兵庫県三田市東山897-2

介護老人保健施設

三田温泉シルバーステイ

〒669-1353
兵庫県三田市東山897-1

介護老人保健施設

神戸ポートピアステイ

〒650-0046
兵庫県神戸市中央区港島中町5-2-3

介護老人保健施設

豊岡シルバーステイ

〒668-0065
兵庫県豊岡市戸牧1132番地2

療養型医療施設

西宮敬愛会病院

〒663-8203
兵庫県西宮市深津町7-5



医療法人 豊 濟 会

小 曾 根 病 院

許可病床数 **557** 床

介護老人保健施設 やすらぎ

定員数 **84** 床

大阪府豊中市豊南町東2丁目6番4号 06-6332-0135

理事長 中 川 泰 洋

理事 芦 田 昇 治

理事 田 晴 行

理事 遊 佐 裕 子

理事 石 井 笑 子

院長 西 元 善 幸

老健施設長 中 村 幹 男

平成30年「立教百年祭」

「人と社会に喜びを」



えん のう きょう
円 応 教
教主 深田 充啓

〒669-3142

兵庫県丹波市山南町村森1-1

TEL.0795-77-0430

www.ennokyo.jp

自然とのふれあいを大切に、大地からの贈り物

EARTH MATTERS®

アースマターズ



プリザーブド & ドライフラワー

株式会社 **大地農園**

〒669-3154 兵庫県丹波市山南町工業団地内
TEL. (0795) 77-2311 FAX. (0795) 77-2318

<http://www.ohchi-n.co.jp/>



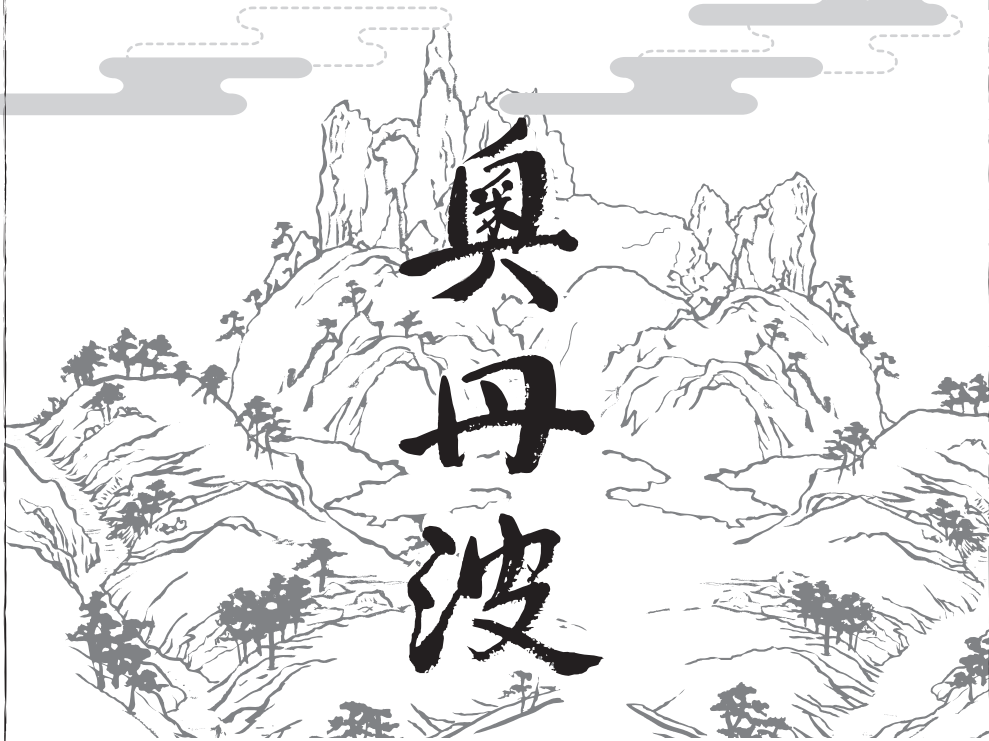
facebook

奥丹波蔵元 山名酒造

当家は元々源氏の総大将、頼朝に付き従った関東武士で、室町時代に応仁の乱で京の都を騒がせた山名宗全の血筋。その後、一族内の争いを逃れて領地を離れ、春日町の興禅寺付近で船川姓に変えて潜んでいたが、一七一六年（享保元年）に現在の市島町上田の地に移り、元の山名姓に戻したのが遠祖の始まりと伝わります。

蔵にある古文書のひとつに、天皇が即位した大嘗祭に奉納米を献上し、宮中から賜った「宝船」を描いたものがあります。カミダ（上田）は神田の呼称が転じたとも言われ、このように稲作に恵まれた環境のもと代々酒造りを生業にして十一代目、平成二十八年で創業三百年となりました。

江戸時代までは「千歳」、明治維新になり「萬（万）歳」、そして平成に入って「奥丹波」と酒銘を変えて仕込み続けて参りました。



www.okutamba.co.jp

▶ 文具・事務用品・高級筆記具・書道用品・印章・ゴム印



新・文具館 柏原本店
Dear Juno
リニューアルしました！

新文具館

新・文具館 柏原本店 (1F)

☎ 0795-72-1223

<店舗直通>

▶ 生活雑貨・インテリア雑貨・ギフト用品・キッチン雑貨・バス用品



Dear Juno (2F)

☎ 0795-72-1223

<店舗直通 (新・文具館 共通)>

▶ OA機器・オフィス家具・事務用品・文具通販

TSP 株式会社土田商事

代表取締役 土田博幸

☎ 0795-72-1117

<営業部直通>

〒669-3311 兵庫県丹波市柏原町母坪409-1

<http://www.tsp-group.jp>

山林をクリエイティブに

一般建築用材・内外装材製造販売
山林再生事業/住宅用地分譲販売



MOKUEI

株式会社 木栄

地域の山を守りながら、未来に残したい
くらしの景色を守る木づくりを進めております。

木の事なら住宅や店舗から神社仏閣まで
まるごとお任せください。

〒669-3821 丹波市青垣町桧倉 323-3
TEL:0795-87-5216 FAX:0795-87-5446

<http://www.mokuei.co.jp> 



富士山のバナジウム天然水
(富士山の銘水)

京都ナチュラルミネラル天然水
(京都丹波の銘水)

大分のゲルマニウム天然水
(大分天領の銘水)

島根金城の華アルカリイオン天然水
モンドセレクション金賞



採水地のある富士山が世界遺産登録



丹波より全国へ展開中!

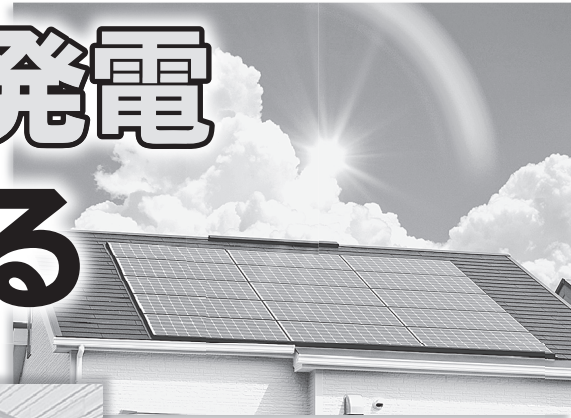
全国製造総発売元

株式会社 **オーケンウォーター**

よ い み ず
TEL0795-70-4132 ☎0120-041-999

詳しくは

太陽光発電 電気を創る



蓄電池 電気を 蓄える

頭金 **0**円で設置できる太陽光発電
無料お見積りご依頼で



プレゼント!!



新電力バンク
兵庫北支部

使用量に応じて

電気を限界まで

安価でご提供!!

電気料金 **最大** **22%**削減

切替まで全て無料!

関西電力管内 従量電灯A契約・B契約・低圧・高圧契約が割引対象!



株式会社 グリーンライフコーポレーション

☎ **0120-797-600**

本社 JR柏原駅前 丹波市柏原町柏原183-3 丹波ゆめタウン店/市島ショールーム



不動産のことなら 何でもお気軽に!

 土地と住まいの相談室
オフィス キムラ 株式会社

● <http://www.office-kimura.co.jp> ● E-mail kimura@lily.ocn.ne.jp

● 本 店 ●

〒669-3465
兵庫県丹波市氷上町横田136番地5
TEL (0795) 80-1500
FAX (0795) 80-1501

● **エイガル** NW丹波店 ●

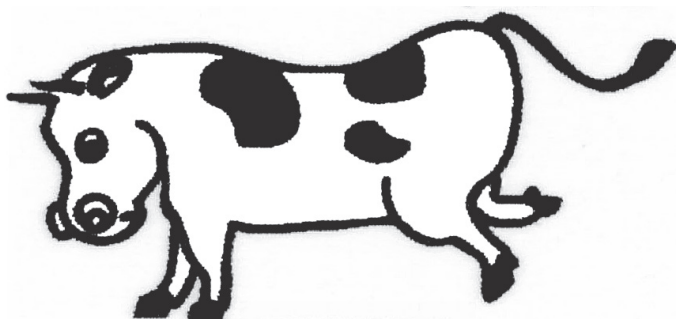
〒669-3465
兵庫県丹波市氷上町横田136番地5
TEL (0795) 82-1550
FAX (0795) 82-6700

● 篠山店 ●

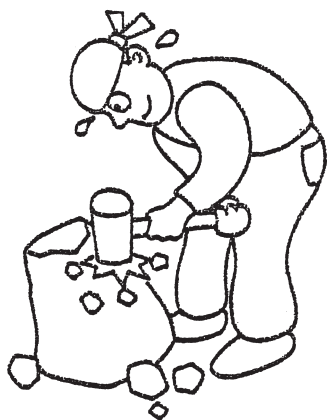
〒669-2205
兵庫県篠山市網掛395番地1
TEL (079) 590-1050
FAX (079) 590-1006

富田畜産

代表 富田信孝



〒669-3603 兵庫県丹波市氷上町西中 44-1
TEL(0795)82-1304
FAX(0795)82-1295



あなたの町の
「石屋さん」…
そんな石屋を
めざしています!!

石の事なら何でもお気軽にご相談ください。

墓石・霊園・建築石材・造園石材

(株) 丹波総合石材

代表取締役 堀 公 二

い し や は こ こ よ

 **0120-1480-54**

工場・事務所 TEL0795-72-3032

FAX0795-72-4343

★弊社ホームページは で!



丹波
KISAKU

k i s a k u

ご予算に応じます。

丹波市柏原町柏原77-1(柏原駅前)

電話 0795-72-1044

<http://www.tanba-kisaku.jp>



たんば黎明館

ル・クロ丹波邸

(お箸で食べるフランス料理)

各種宴会ご案内

同窓会・歓送迎会・各種お祝い

4名～60名様〈1階個室、2階宴会場完備〉
送迎付きプランやお客様のご予算に応じてご相談承ります

基本プラン(基本2時間)

★コース・テーブルビュッフェ・ビュッフェで提供出来ます。

Aプラン…お一人様 5,800円

前菜、お魚料理、お肉料理、デザート、コーヒー、パン

Bプラン…お一人様 7,500円

アミューズ、冷前菜、温前菜、お魚料理、お肉料理、デザート、コーヒー、パン

Cプラン…お一人様 9,500円

旬の高級食材を使ったシェフお勧め特別フルコース

*全てのプランにフリードリンク(ビール、ノンアルコールビール、ワイン(赤・白)・ソフトドリンク)が含まれます。

ル・クロ丹波邸 コースメニュー

●ランチメニュー

- ・フティコース 1,950円
- (土日、祝日 アミューズ付) 2,450円
- ・ル・クロコース 2,950円
- ・タンバコース 3,600円
- ・シェフスペシャル 5,200円

アラカルト(単品)
430円～

●ディナーメニュー

- ・ル・クロコース 5,400円
- ・ピヤベースコース 4,400円
- ・シェフスペシャル 7,100円

ドリンク
590円～

※アミューズ(お付きだし)代として
600円別途頂きます。

●お祝い事など気軽にお問い合わせ下さい。スタッフ一同でお祝いさせていただきます。



ル・クロ丹波邸

Le Clos

〒669-3309

丹波市柏原町柏原688-3

●ランチ

11:30～15:00(L.O.14:00)

●ディナー

17:30～22:30(L.O.21:30)

ル・クロ丹波邸では
結婚式も出来ます

TEL/FAX0795-73-0096

休 水曜日〔祝日の場合は営業〕

2F タンバール(ダイニングカフェ) \ 平日限定ランチバイキング開催中/
■ランチバイキング 1,000円 お料理12種、デザート、コーヒー、紅茶

※価格はすべて税込み

JXTGエネルギー

EMG

有田産業株式会社

代表取締役 **有田 秀雄**

〒553-0002 大阪市福島区鷺洲3丁目1-38

TEL (06) 6451-1649 (代表)

FAX (06) 6451-0580



有限会社 エス・ディー

みなさまの



信頼感 と 顔の見える 安心感

生命保険

終身保険

定期保険

個人年金保険

医療保険

がん保険

火災保険



自動車保険



けがの保険



賠償責任

など

損害保険・生命保険は
エス・ディーにご用命ください

当社は関丹波市郷友会の
青少年健全育成に協力しています。

各種保険の内容や
事故対応について
何なりとご相談下さい！



東京海上日動火災保険株式会社 損害保険シャパン日本興亜株式会社 代理店

有限会社 エス・ディー 担当：嶋田

〒550-0013 大阪市西区新町2丁目15番地27号 TEL 06-6539-3229

ザンキン B&G 株式会社



代表取締役会長

玉置克臣

代表取締役社長

濱岡哲夫

常務取締役

田晴行

〒550-0013 大阪市西区新町2丁目15番27号

TEL (06) 6539-3281 FAX (06) 6539-3238

建設業者登録 国土交通大臣 第21287号
一級建築士事務所登録 大阪府知事 第5916号
宅地建物取引業者登録 大阪府知事 第41184号

建設事業部（ビルドB） 農芸事業部（グリーンハウスG）

- ・ 建築工事の設計及び施工請負
- ・ 不動産の売買及び仲介
- ・ 農業用施設の設計及び施工請負
- ・ 太陽光発電システムの設計及び施工請負

本 社・関東支店・西部営業部・東北出張所・沖縄出張所



丹波新聞

伝えたい
届けたい

丹波市舞台の映画「恐竜の詩」完成！

丹波市を舞台にした映画「恐竜の詩」が今年3月に完成。6月1日から全国ロードショーされた。3月24日に春日文化ホールで、完成披露試写会が行われ、市民ら500人が一足早く映画を楽しんだ。

(写真は、青垣町での撮影シーン。昨年4月撮影)

株式会社 丹波新聞社

〒669-3309 丹波市柏原町柏原201
tel.0795-72-0530 fax.0795-72-1956

丹波新聞

検索 

週2回(日・木)発行 1ヶ月1,255円(郵送料205円)

おもい
私たちの念は、丹波素材で奏でる「ライブ ステージ」



丹波素材のスイーツ
丹波特産品の和洋菓子
夢の里やながわ本店

丹波の心を伝える—
丹波伝心

夢の里 やながわ

風丹
土波
TAMBAFU-DO
The Sweetness of Nature

株式会社やながわ 代表取締役 柳川 拓三

本店

兵庫県丹波市春日町野上野920
TEL 0795-74-0123
営業時間 10:00▶18:00
定休日 木曜日

福知山店

京都府福知山市駅前町343
和田ビル1階
TEL 0773-22-2840
営業時間 10:00▶19:00
定休日 木曜日

東京春日店

東京都文京区本郷1丁目35-26
ラレーブ文京本郷ビル1階
TEL 03-3868-5610
営業時間 10:00▶19:00
定休日 木曜日

<http://tamba-yanagawa.co.jp>

創業明治25年(1892年)

岡林寫真館

本 店 丹波市柏原町柏原JR柏原駅前
TEL 0795-72-0033 FAX 0795-72-1148
コモーレ店 丹波市柏原町母坪コモーレ丹波の森内
TEL・FAX 0795-73-1233

.....一度ホームページをご覧ください.....

www.okabayashi.co.jp/

岡林写真館

検索

心豊かな暮らしにご奉仕いたします

仏壇 仏具 位牌 宗教行事用具

創業大正8年

大仏堂

国道175号線と176号線の交差点すぐ

丹波市氷上町横田(コープこうべ柏原店様前)

お電話代無料

ふくよぶみんな

 **0120-2946-37** へお気軽にどうぞ。

FAX 0795-82-5427

兵庫県・京都府下18店舗展開中

作業服・作業用品専門店

オオツキはユニフォームから作業用品まで、
働く職場をがっちりサポートする会社です。

ラジオ関西・FM“805 たんば”でCMソング放送中！

会員カード(ダルマカード)発行中!!

◎毎月 9日・19日・29日はポイント2倍デー！

◎毎週水曜日レディースデー！(女性の方はポイント2倍)



株式会社

オオツキ

兵庫県丹波市春日町新才518 TEL : 0795-74-0179 FAX : 0795-74-2833

<http://www.otsuki.ne.jp> e-mail info@otsuki.ne.jp



介護付有料老人ホーム
さわやか神戸西館
 2019年7月開所予定

設計・監理
清水一級建築設計事務所
 一級建築士 **清水昭景**

〒669-3131 兵庫県丹波市山南町谷川714-2
 携 帯: 090-3429-8097
 TEL・FAX: 0795-77-0369
 E-mail shimizusekkei0369@athena.ocn.ne.jp

本格会席・創作料理の店



丹南茶寮

春は山菜、夏は川魚、

秋は栗・松茸、冬は山の芋・・・

丹波の四季をお楽しみ下さい

tannansaryou.com

ミニ同窓会・ご商談にお気軽にどうぞ

和食膳所 **丹南茶寮**

〒669-2214 兵庫県篠山市味間新92-4

☎(079)590-1020

【駐 車 場】
 有り(無料) - 7台まで

【営業時間】 定休日翌日は17時より
 お昼の御食事 11:30~13:30
 夕晩の御食事 17:00~22:00

【定 休 日】 水曜
 ※第4木曜日(変更になる場合有)

代 表 鷺尾英紀



たんばコミュニティエフエム

市民のための！ 市民による……
放送局です！

FM80.5MHz

丹波市内で毎日、朝6時から夜10時まで
放送中です。



FM80.5MHz

805たんば

特定非営利活動法人 たんばコミュニティネットワーク
〒669-3461 丹波市氷上町市辺 683
Tel.0795-82-1881 Fax.0795-78-9832 Mail:mail@tanba.info

●インターネットラジオ
(サイマル放送)

または

●スマートフォン
(無料アプリ)

でも聴けます。

皆様のご支援やご参加を
お願いいたします。

詳しくはホームページ
<http://805.tanba.info>
をご覧ください。

丹波布と親しみ 工芸と暮らす



K A B U R A

工 芸 の 店 か ぶ ら

丹波布 かぶら

住 所 ■ 〒669-3309 兵庫県丹波市柏原町柏原46

T E L ■ 0795-71-1683

営業日 ■ 金曜、土曜、日曜、月曜

時 間 ■ 10:00~15:30

Facebook / Instagram KABURA

kabura.tambanuno@gmail.com



会誌「山ざる」49号・年1回発行

柏原町・谷書店にてお求めいただけます。
1冊 ¥500円

関東氷上郷友会

心と心のおつきあい

ふるさと丹波と関東地域の丹波出身者の心をつなぐ

会誌「やまざる」にご投稿お待ちしております

お問い合わせは事務局迄

最近関東以北の地域に越された方、ご連絡下さい。

事務局

〒351-0014 埼玉県朝霞市膝折町 4-4-30

TEL 048-460-1601 FAX 048-460-2397

ホームページ <http://pcc-taiyo.co.jp/hikami>

本誌広告を募集します

次号(第4号)は、2019年10月末に発行を予定しています。本会の創設120周年を記念し、さらに内容を充実させる計画です。

本誌は皆様方のご厚志にて発行費用を賄っております。何卒ご理解を頂いて、協賛下さいますよう、よろしくお願い申し上げます。

広告費：全ページ 15,000円(税込)

半ページ 8,000円(税込)

申し込み先：会報委員長 山口直樹(090-8936-8471)

関西丹波市郷友会に入会しませんか

関西丹波市郷友会は、旧氷上郡出身者により明治32年(1899)年に創設され、同郷の人々の親睦と郷土の青少年の育成のために、長年に渡って様々な活動を行ってきました。

しかしながら、時代の変遷とともに、会員の高齢化や会員数の減少など本会を取り巻く状況は大きく変わってきています。この時期に当たり役員会では、伝統に甘んじて惰性的に活動を進めるのではなく、丹波市の将来に真に貢献できる方向で活性化を図る必要があるとの認識のもと、平成28年度より新たな試みを始めました。

今回2号目となった会報誌「たんば」の発刊、年次総会の地元での開催、さらには今回の地域医療講演会の開催など様々な方策を企画しております。出身者だけでなく、地元在住の方々にも大いに関わっていただいて情報交換したり議論し合うことにより、人口減少などの困難に直面する丹波市の課題解決に向けて、いささかでもお役に立てる会に発展できればと、願っております。

どうか皆様にも加わっていただき、お力添えをくださいますよう、よろしく願い申し上げます。丹波市出身でなくても、何らかのご縁があって丹波に関心を持たれる方ならどなたでも歓迎いたします。

年会費3,000円を納入いただきましたら、年次総会のご案内、会報「たんば」の送付ほか、本会が催すイベントのお知らせ等々をいたします。

次ページの入会申込書にお名前、住所、電話番号、年齢などを明記してお申し込みください。

寄稿を歓迎します 本誌を郵送料ご負担で送ります。

本誌は年1回発行予定です。次号への寄稿を歓迎いたします。

ご希望の方は会報委員長 山口直樹宛て(0795-82-1651)にご連絡ください。

また本誌(無料)をご希望の方は、下記の事務局(丹波市以外に在住の方)または丹波新聞社(丹波市在住の方)まで郵送料300円(切手可)を添えてお申し込み下さい。

たんば 第3号

2018年11月1日発行

発行 関西丹波市郷友会(会長 有田秀雄)
〒550-0013 大阪市西区新町2-15-27
サンキン株式会社 内
Tel.06(6539)3201
Fax.06(6539)3231

印刷 株式会社 丹波新聞社 Tel.0795(72)0530

年 月 日

関西丹波市郷友会入会申込書

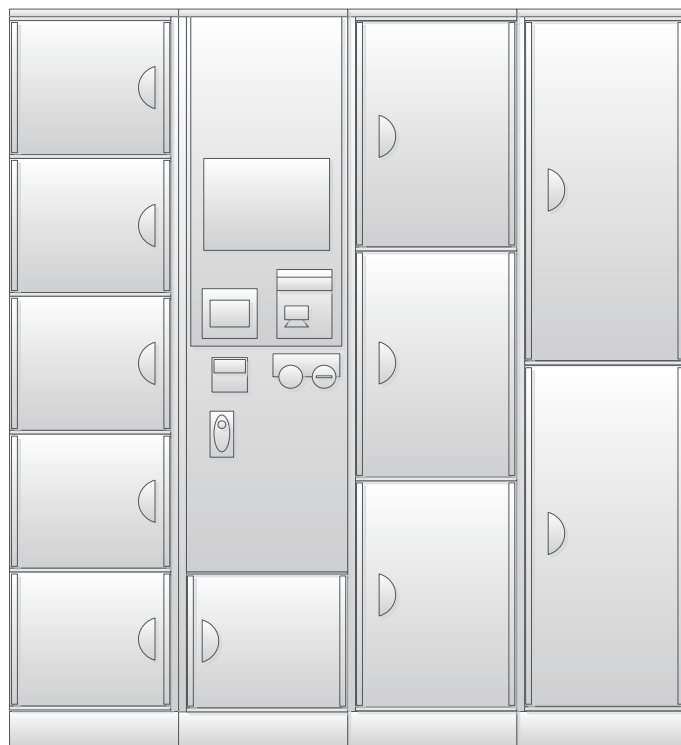
ふりがな	
氏 名	
〒 番 号	
現 住 所	
電 話 番 号	
年 齢	歳
出 身 地 又は縁故地	丹波市 町
紹介者氏名 (会員氏名)	
紹介者がいない場合は、以下にお書き下さい	
丹波市との 関わり	
勤 務 先	会社名
	住所・電話

上記の様式をコピーして、FAX または郵送して下さい。
届き次第、入金振込票をお送りします。会費は年3,000円。入会費は不要です。

関西丹波市郷友会 事務局

〒550-0013 大阪市西区新町2-15-27 サンキン株式会社内
電話：06-6539-3201 FAX：06-6539-3231

お客様の手荷物保管 スペースを創造して50年。



since

1966 → Next

コインロッカーの販売・オペレート

丸十ロッカー株式会社

代表取締役 田 恭子

〒664-0858 兵庫県伊丹市西台 4-1-26

TEL:072-772-2654 FAX:072-770-5553

URL:<http://www.marujulocker.co.jp>

契約先 42 社

設置ロケーション数 537カ所

設置台数 4,258 台

設置口数 15,714 口

2016年現在



ガンキン株式会社



真に役立つ存在であり続けたい

代表取締役社長 田 貴 晴

代表取締役副社長 水 口 純 二

取締役会長 田 晴 重

取締役相談役 玉 置 克 臣

【当社製品】

- 冷間引抜鋼管
- 家庭用物置
- 物流パレット
- 立体駐車装置
- 車止め